

長崎県ケアラー当事者実態調査結果

①主に高齢者をお世話するケアラー

令和5年10月
長崎県福祉保健部長寿社会課

【調査目的】

家族の介護や、日常生活上のお世話を無償でしている人（ケアラー）の悩みや困りごと、支援ニーズ等を把握し、支援を必要としているケアラーの早期発見や適切な支援につなげるための方策を検討するとともに、ケアラー支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

【調査回答者】

以下の事業者等を通じて抽出したケアラー

- ①地域包括支援センター（52か所）
- ②居宅介護支援事業所（458か所）

【配布数】

1,530件

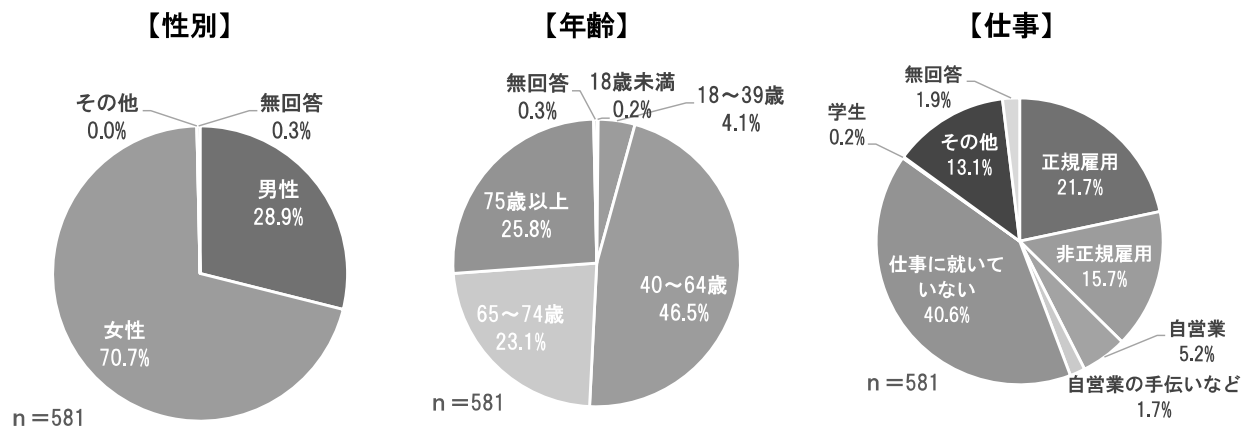
【回答数】

581件（回答率38.0%）

1. ケアラーの基本属性

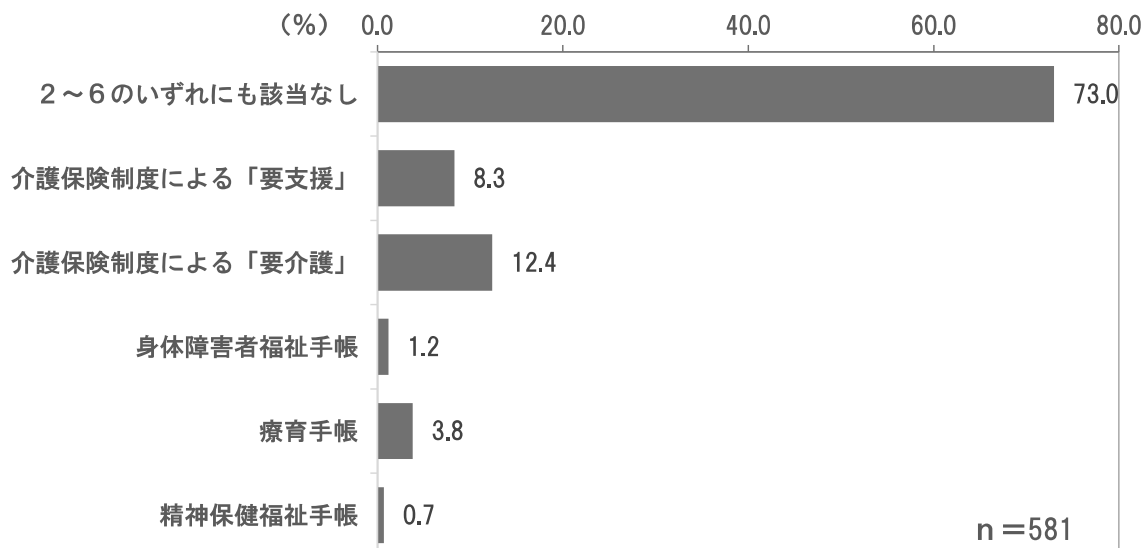
(1) ケアラーの性別・年齢・仕事

性別は「女性」70.7%、「男性」28.9%となっている。
 年齢は「40～64歳」が46.5%で最も多く、次いで「75歳以上」が25.8%、「65～74歳」が23.1%と続いており、65歳以上で48.9%と半数を占めている。
 仕事は「仕事に就いていない」が40.6%で最も多く、次いで「正規雇用」が21.7%、「非正規雇用」が15.7%と続いている。



(2) ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等

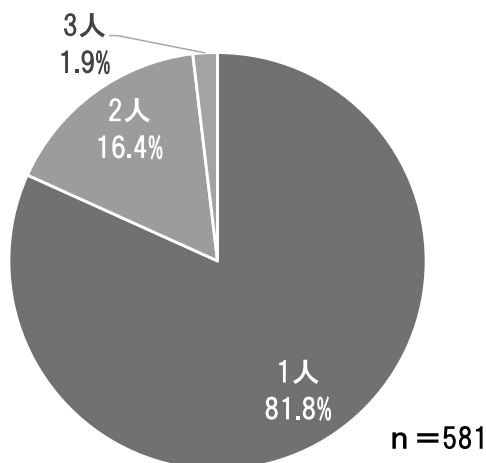
ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等は「2～6のいずれにも該当なし」が73.0%で最も多く、次いで「介護保険制度による「要介護」」が12.4%、「介護保険制度による「要支援」」が8.3%と続いている。このことから、2割強がケアラー自身も何らかの障害や支援を必要とする人となっていることがわかる。



2. お世話をしている相手の状況

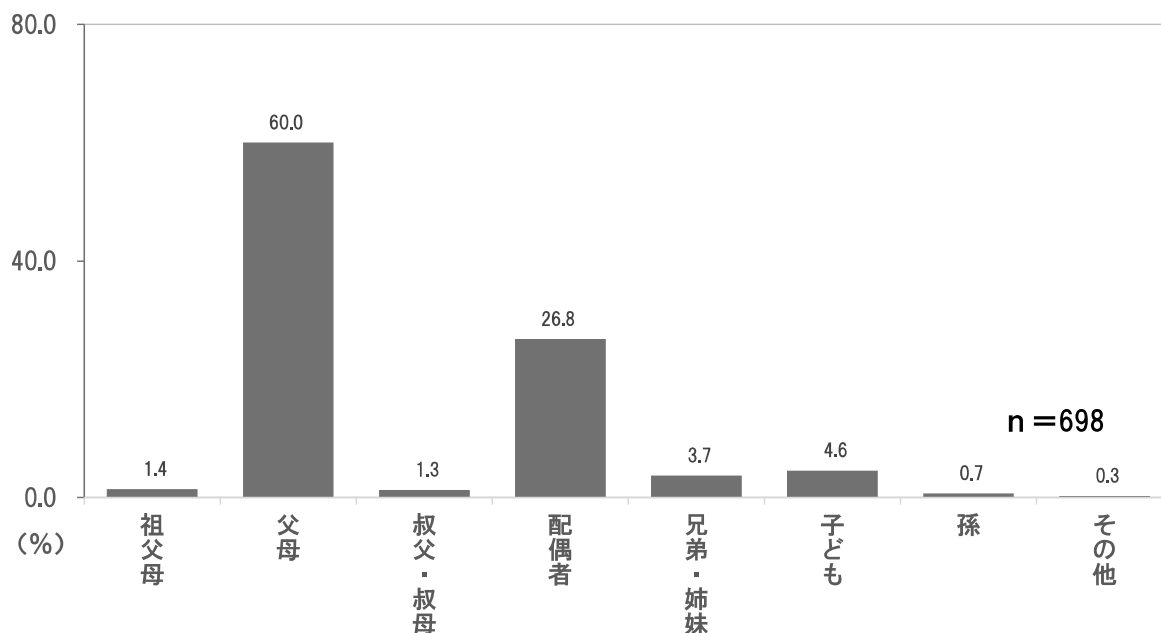
(1) お世話をしている相手の人数

お世話をしている相手の人数は「1人」が81.8%で最も多く、次いで「2人」が16.4%、「3人」が1.9%となっている。



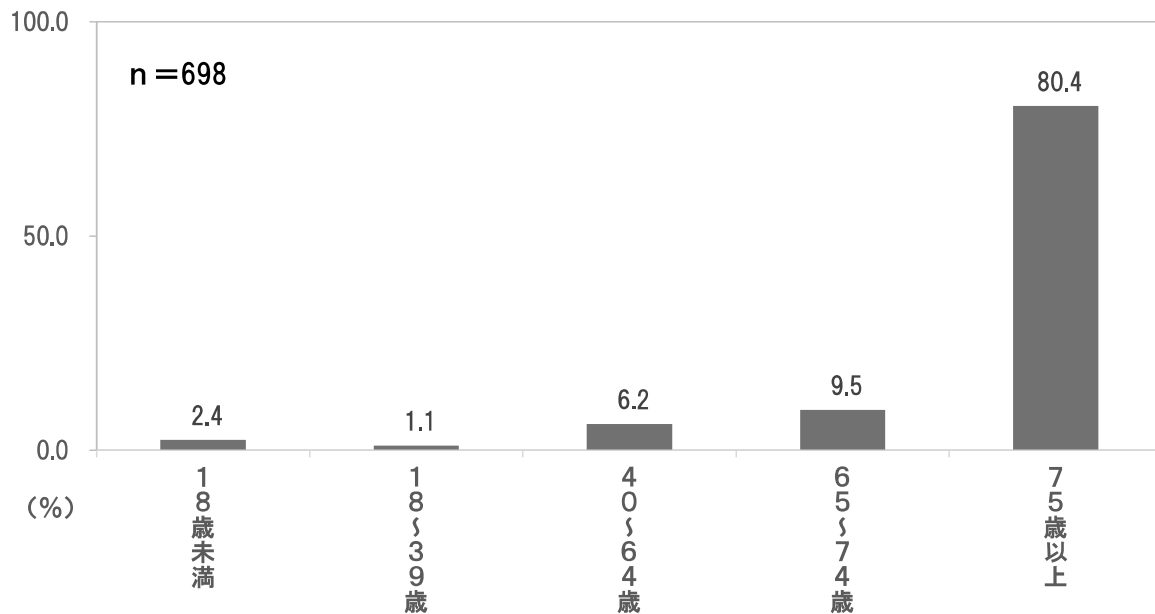
お世話をしている相手の続柄

お世話をしている相手の続柄は「父母」が60.0%で最も多くなっており、次いで「配偶者」が26.8%、「子ども」が4.6%と続いている。



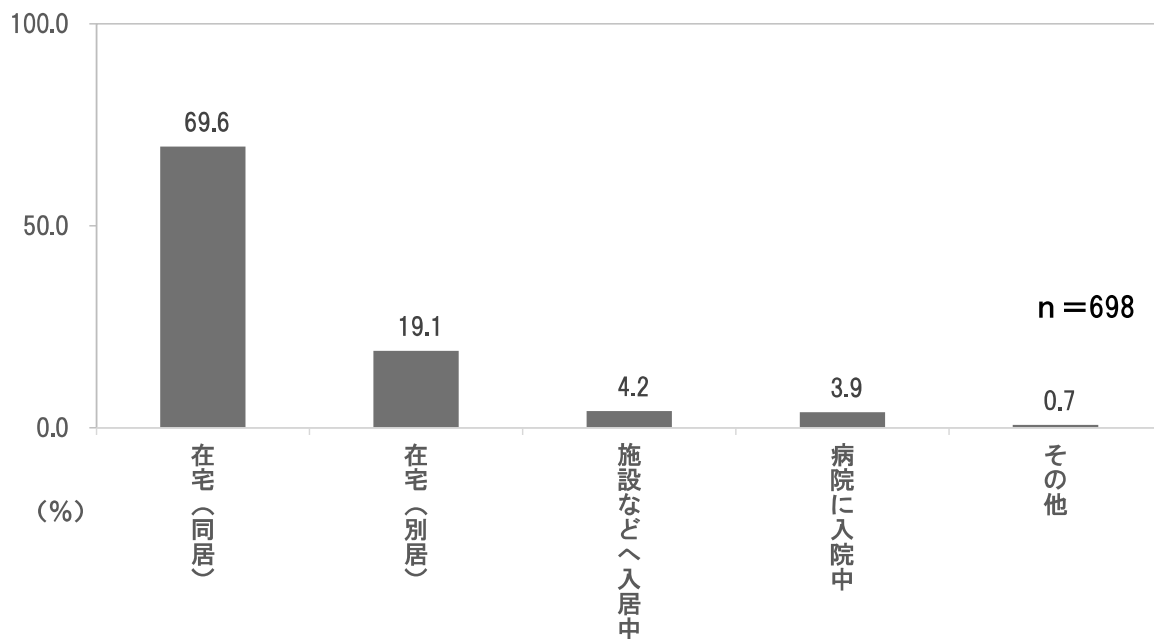
(2) お世話をしている相手の年齢

お世話をしている相手の年齢は「75歳以上」が80.4%で最も多く、次いで「65～74歳」が9.5%、「40～64歳」が6.2%と続いている。



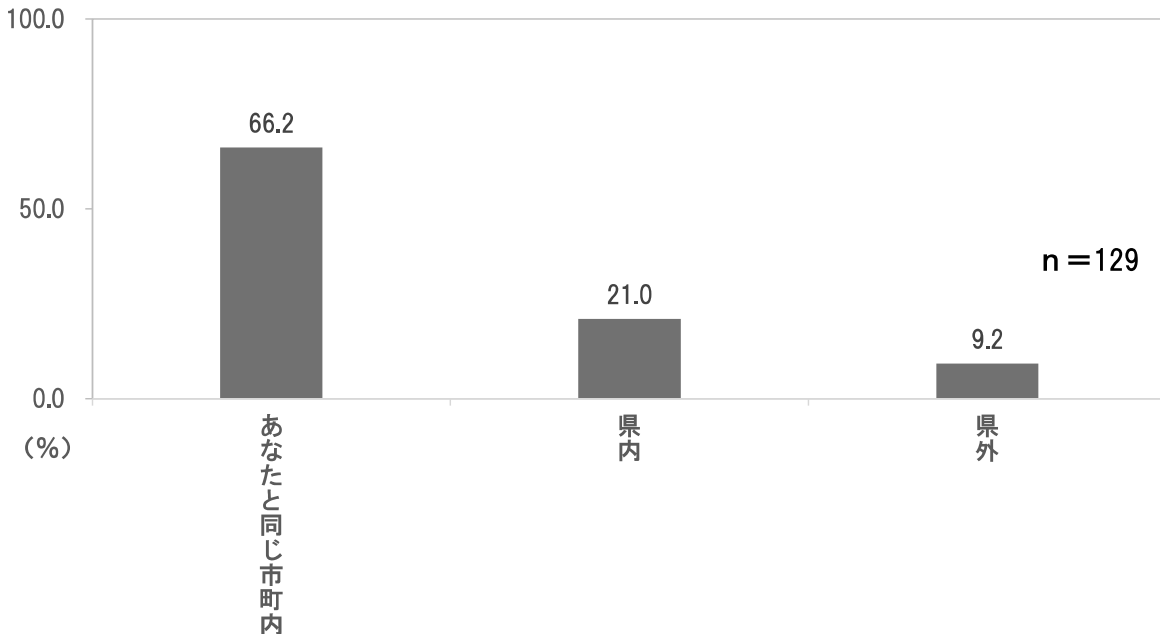
(3) お世話をしている相手の生活の場所

お世話をしている相手の生活の場所は「在宅（同居）」が69.6%で最も多く、次いで「在宅（別居）」が19.1%、「施設などへ入居中」が4.2%と続いている。



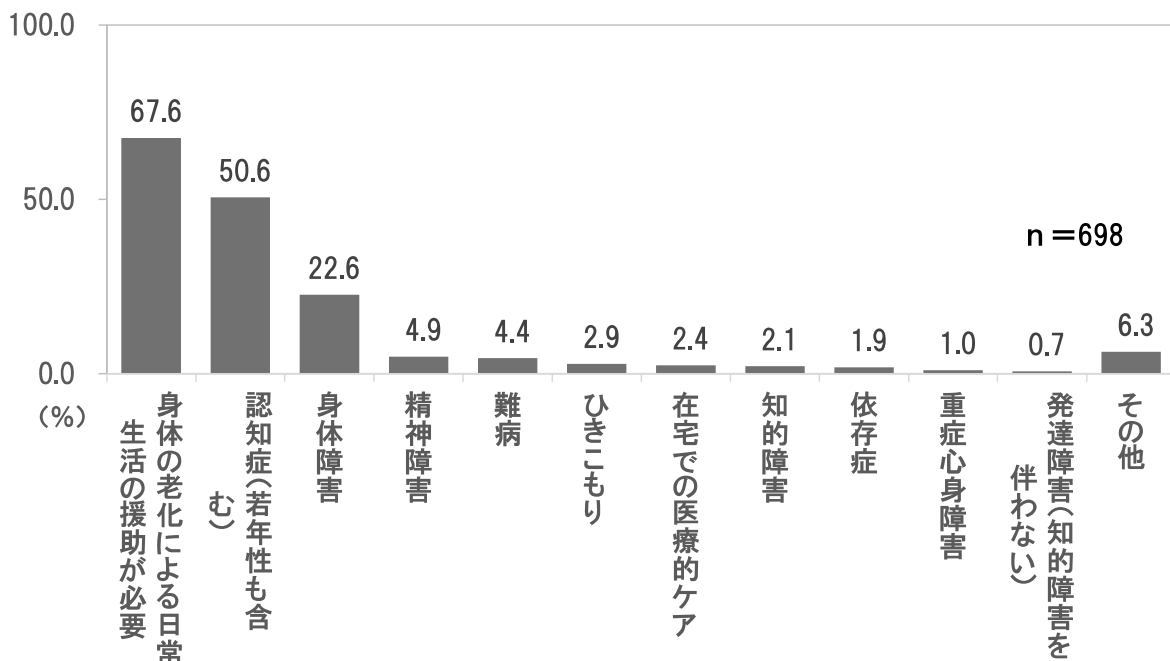
(4) お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）

別居でお世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）は「あなたと同じ市町内」が66.2%で最も多く、次いで「県内」が21.0%、「県外」が9.2%と続いている。



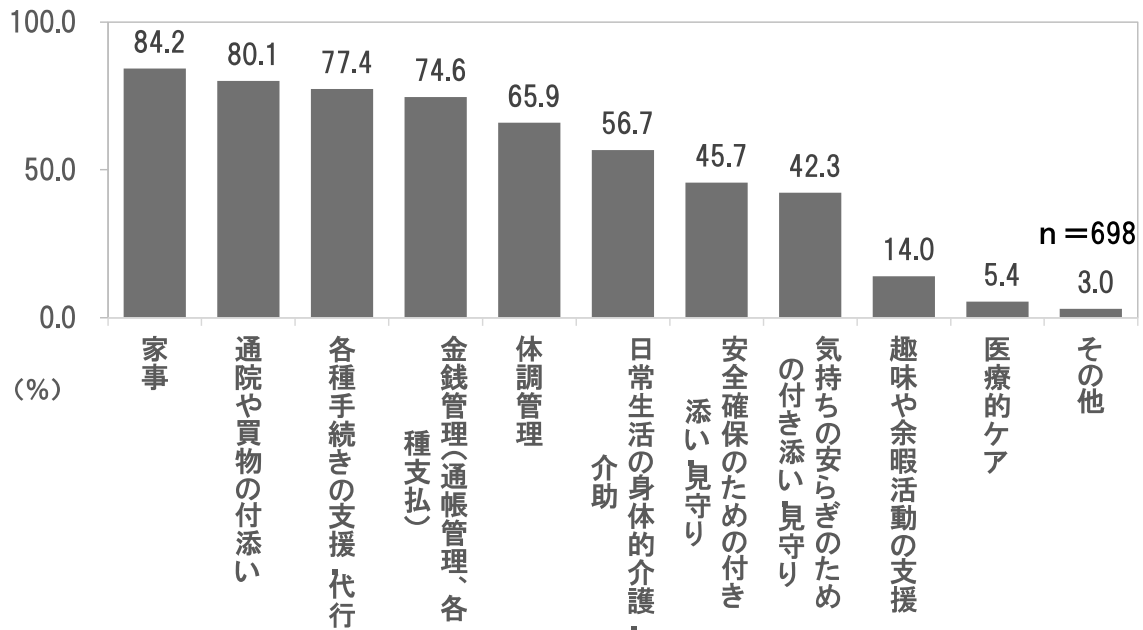
(5) お世話が必要な理由

お世話が必要な理由は「身体の老化による日常生活の援助が必要」が67.6%で最も多く、次いで「認知症（若年性も含む）」が50.6%、「身体障害」が22.6%と続いている。



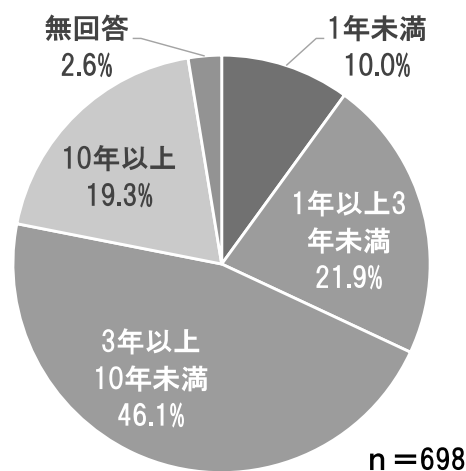
(6) お世話をしている内容

お世話をしている内容は「家事」が84.2%で最も多く、次いで「通院や買物の付添い」が80.1%、「各種手続きの支援・代行」が77.4%と続いている。



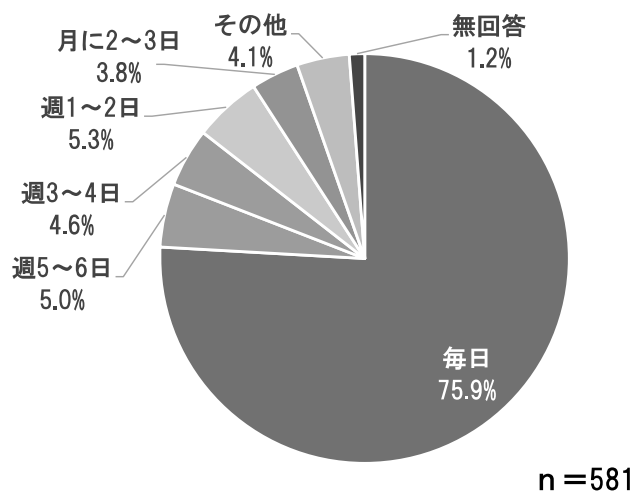
(7) お世話をしている期間

お世話をしている期間は「3年以上10年未満」が46.1%で最も多く、次いで「1年以上3年未満」が21.9%、「10年以上」が19.3%と続いている。



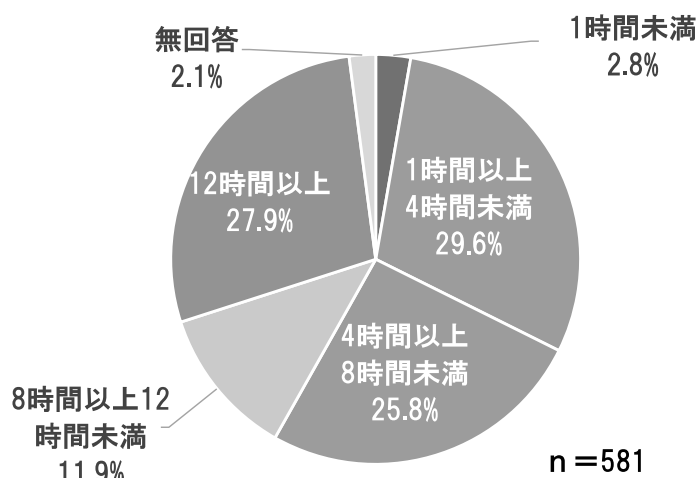
(8) お世話のサイクル

お世話のサイクルは「毎日」が75.9%で最も多く、次いで「週1～2日」が5.3%、「週5～6日」が5.0%と続いている。



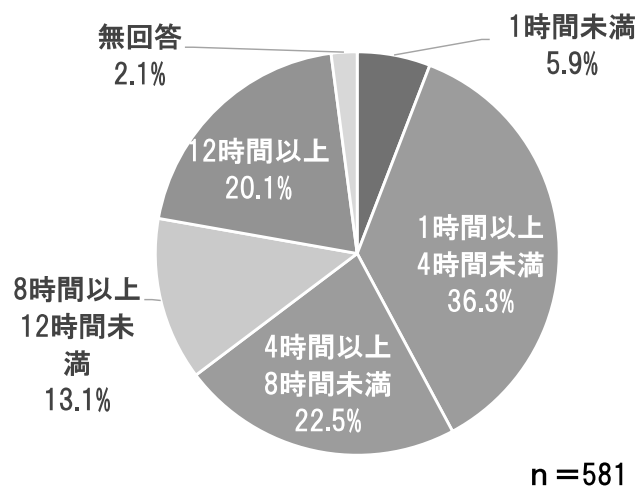
(9) お世話の最長時間（1日）

直近1ヶ月のお世話の最長時間（1日）は「1時間以上4時間未満」が29.6%で最も多く、次いで「12時間以上」が27.9%、「4時間以上8時間未満」が25.8%と続いている。



(10) お世話の平均時間(1日)

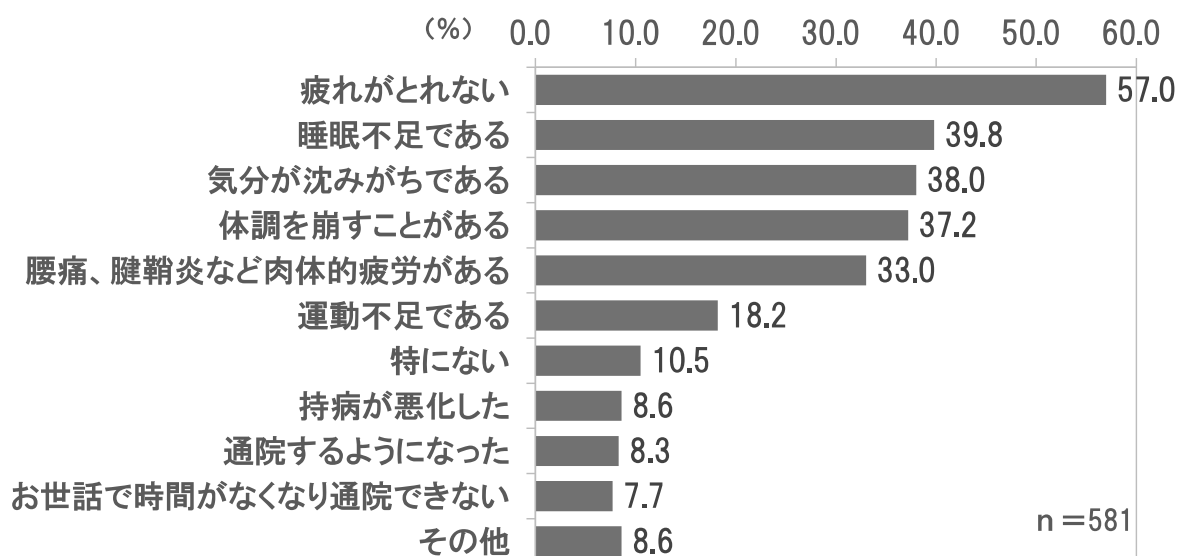
直近1ヶ月でのお世話の平均時間(1日)は「1時間以上4時間未満」が36.3%で最も多く、次いで「4時間以上8時間未満」が22.5%、「12時間以上」が20.1%と続いている。



3. ケアラーへの影響

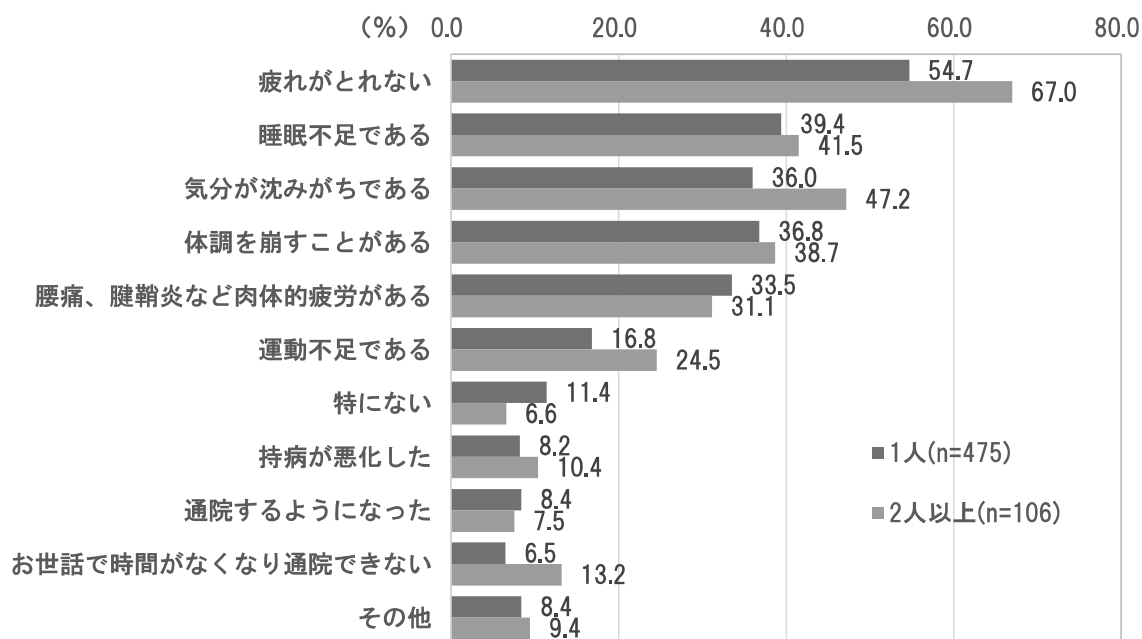
(1) 健康面への影響

お世話による健康への影響は「疲れがとれない」が57.0%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が39.8%、「気分が沈みがちである」が38.0%と続いている。



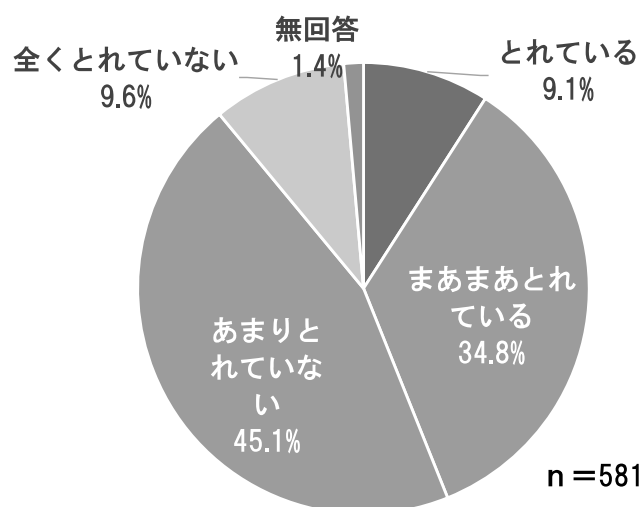
(2) 健康面への影響（ケアしている人数別）

お世話による健康への影響をお世話をする人の人数で見ると、「疲れがとれない」は12.3ポイント、「気分が沈みがちである」が11.2ポイントと「2人以上」が「1人」を上回っており、殆どの項目で複数ケアしている方が、健康への影響が大きくなっている。



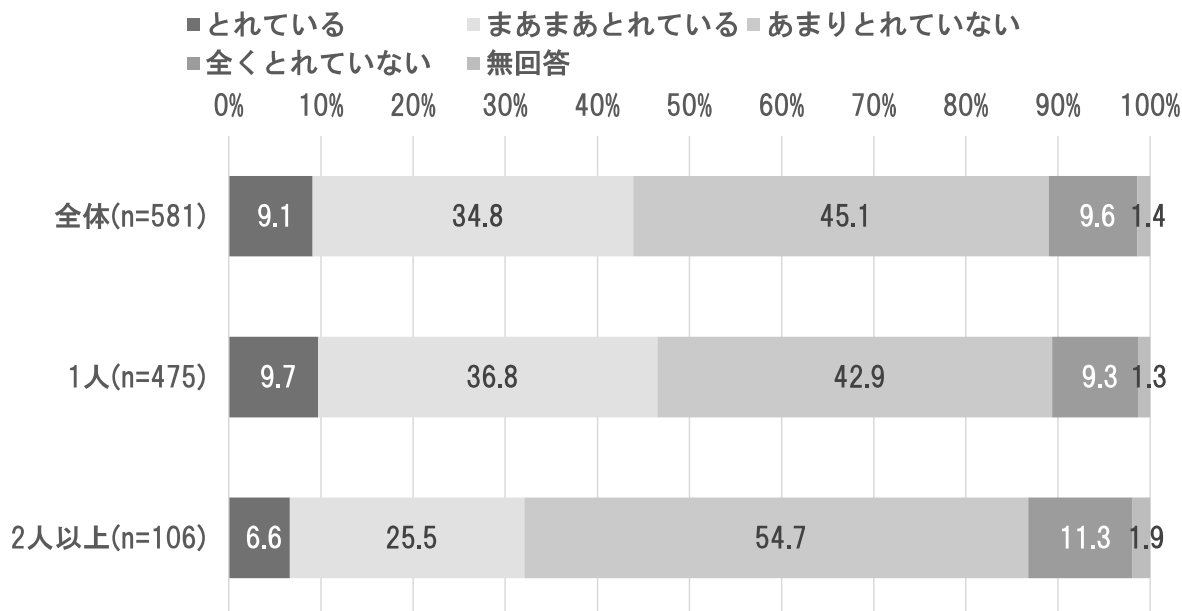
(3) 自分のための時間

「とれる（「とれている」+「まあまあとれている」）」が43.9%、「とれていない（「あまりとれていない」+「全くとれていない」）」が54.7%となっている。



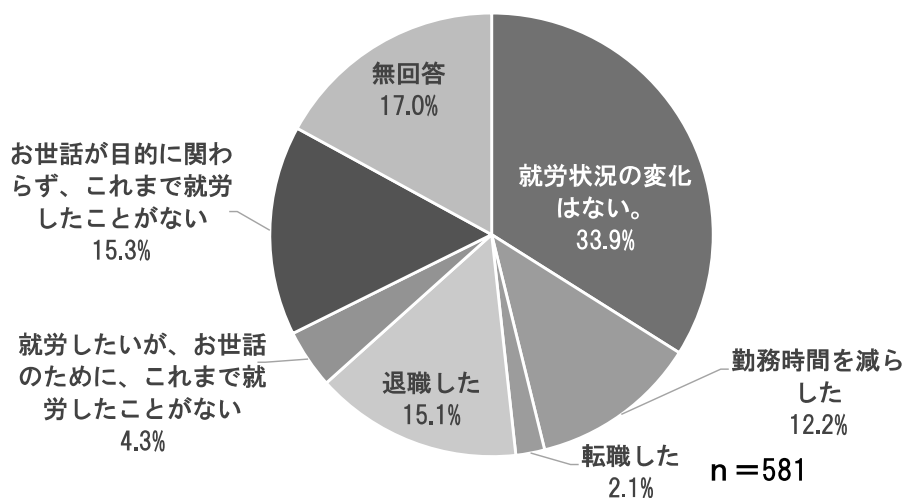
(4) 自分のための時間（ケアしている人数別）

「とれない」は「1人」は52.2%、「2人」が66.4%となっており、「とれない」は「2人以上」が13.8ポイント高くなっている。



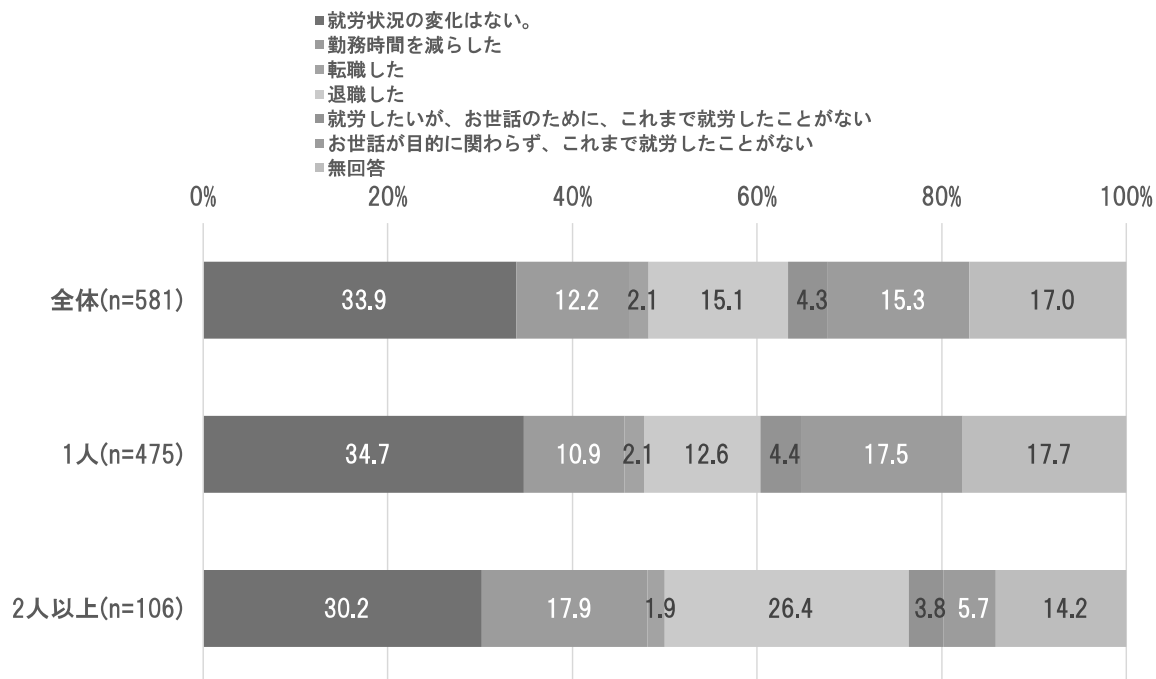
(5) 就労状況の変化

「就労状況の変化はない」が33.9%で最も多く、次いで「お世話が目的に関わらず、これまで就労したことがない」が15.3%、「退職した」が15.1%と続いている。



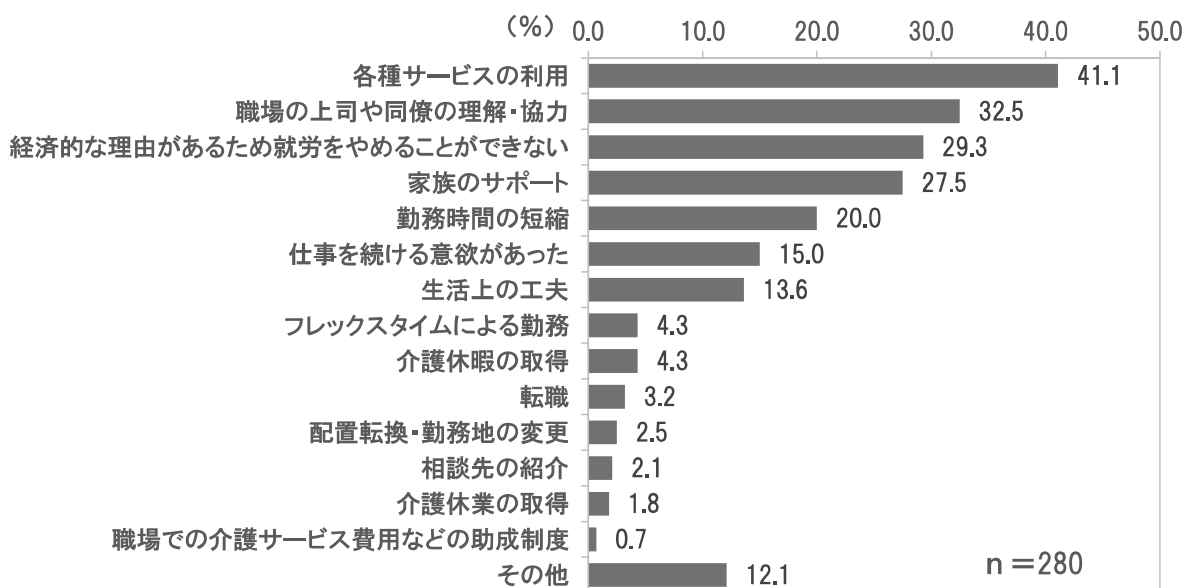
(6) 就労状況の変化（ケアしている人数別）

「2人以上」は「退職した」が26.4%となっており、複数人数のケアは負担が大きいことがわかる。



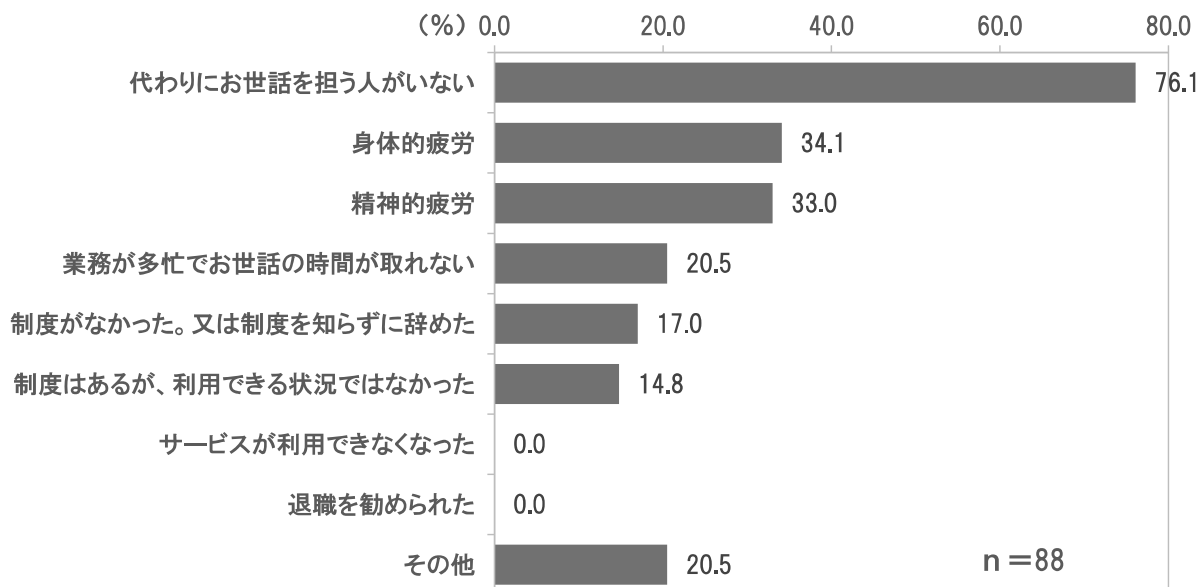
(7) 就労継続ができた理由（就労を続けられた方のみ回答）

就労継続ができた理由は「各種サービスの利用」が41.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚の理解・協力」が32.5%、「経済的な理由があるため就労をやめることができない」が29.3%と続いている。



(8) 退職した理由（お世話をすることを機に退職された方のみ回答）

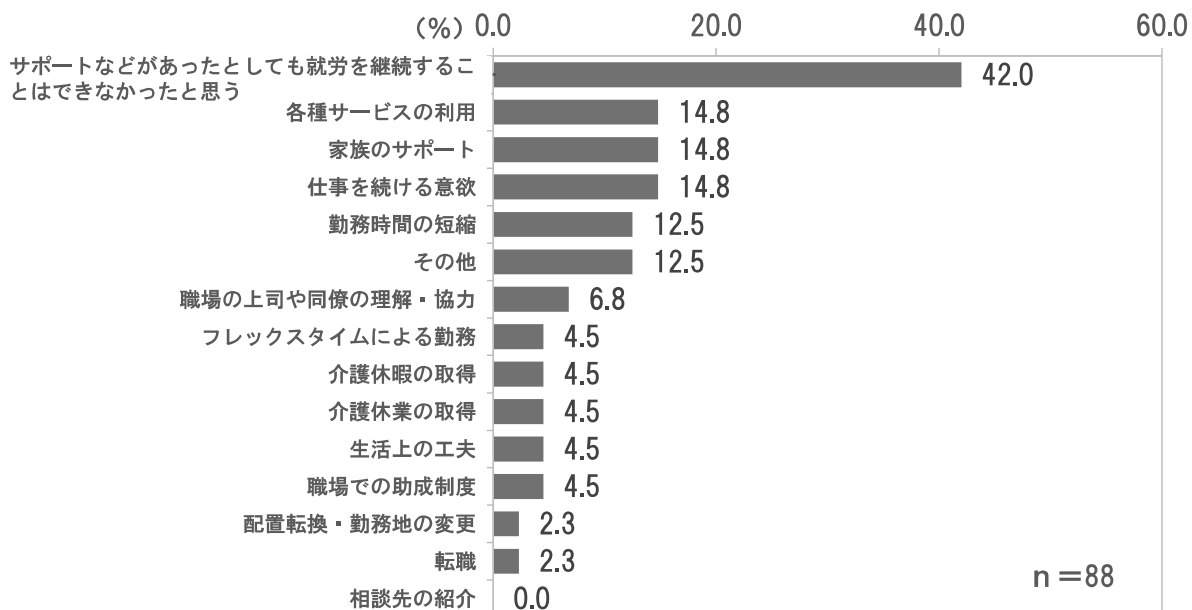
退職した理由は「代わりにお世話を担う人がいない」が76.1%で最も多く、次いで「身体的疲労」が34.1%、「精神的疲労」が33.0%と続いている。



(9) 就労を継続するために必要な支援

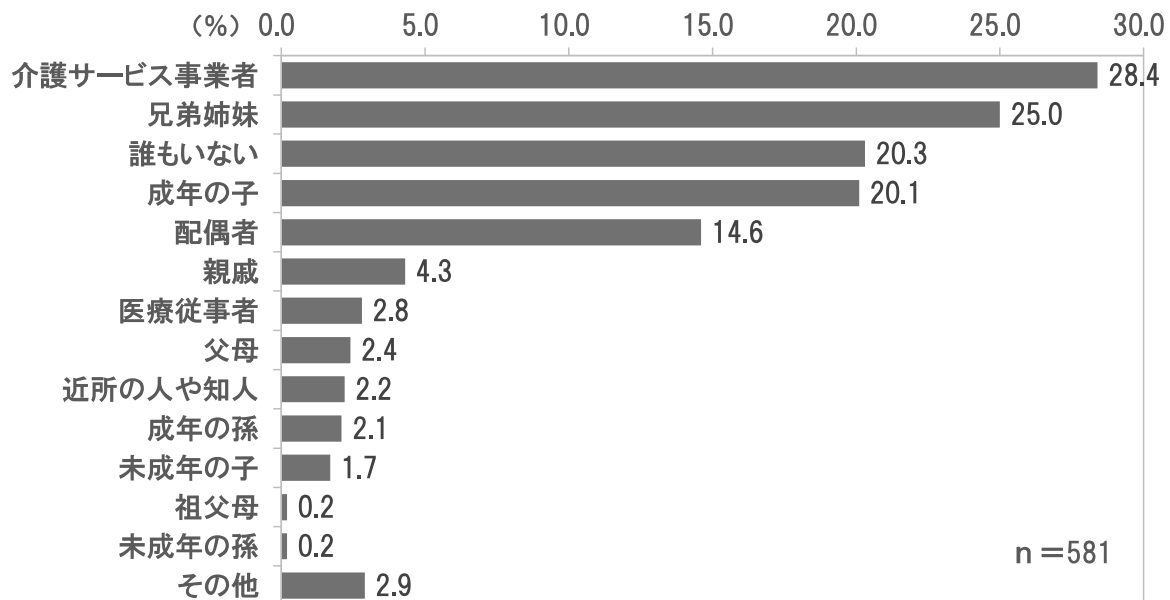
（お世話をすることを機に退職された方のみ回答）

退職を回避する方法は「サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う」が42.0%で最も多く、次いで「各種サービスの利用」・「家族のサポート」・「仕事を続ける意欲」が14.8%と続いている。



(10) 緊急時の代替者

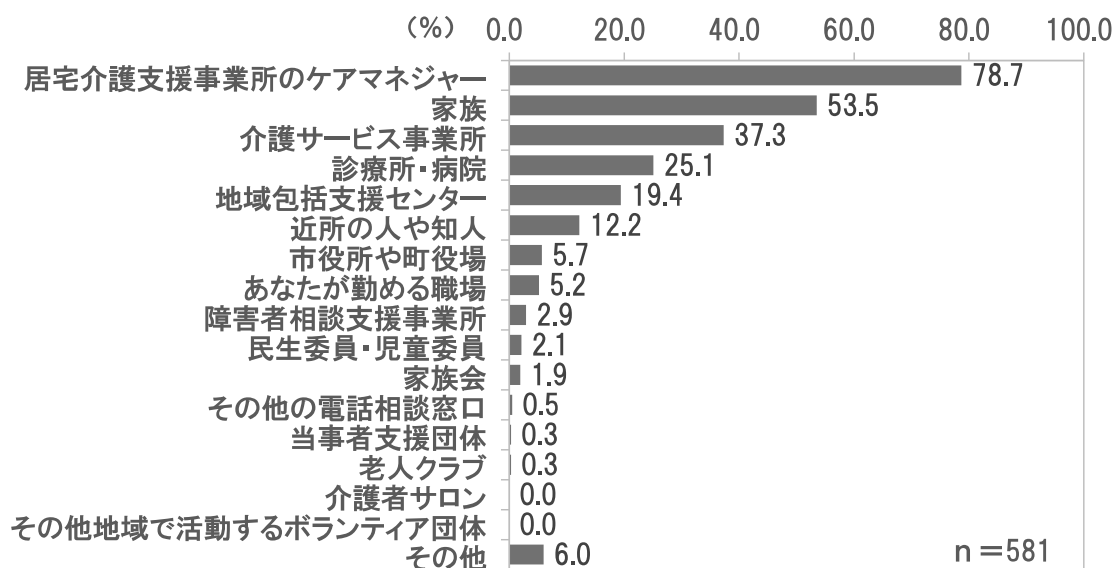
代わりのケアラーは、「介護サービス事業者」が28.4%で最も多く、次いで「兄弟姉妹」が25.0%、「誰もいない」が20.3%と続いている。



4. 相談先や相談窓口

(1) 頼りにしている相談先

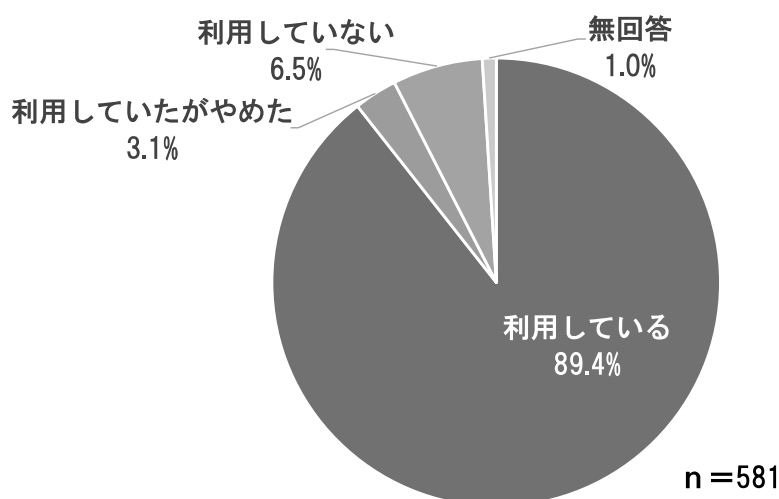
頼りにしている相談先は、「居宅介護支援事業所のケアマネジャー」が78.7%で最も多く、次いで「家族」が53.5%、「介護サービス事業所」が37.3%と続いている。



5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用

(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無

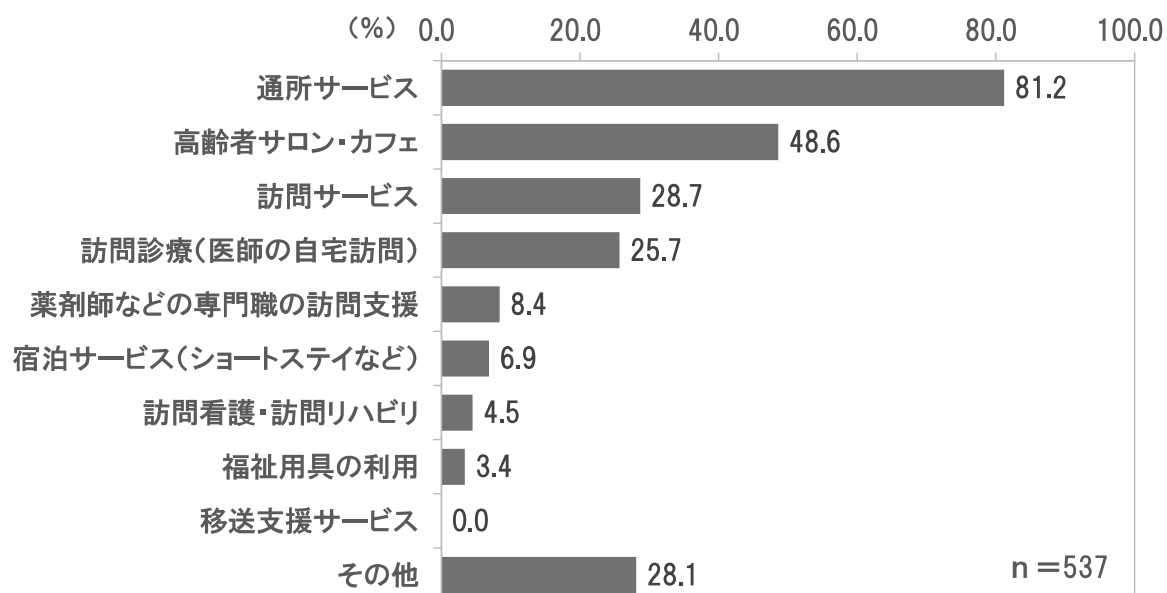
「利用している」が89.3%で最も多く、次いで「利用していない」が6.5%、「利用していたがやめた」が3.1%と続いている。



(2) 利用しているサービス

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

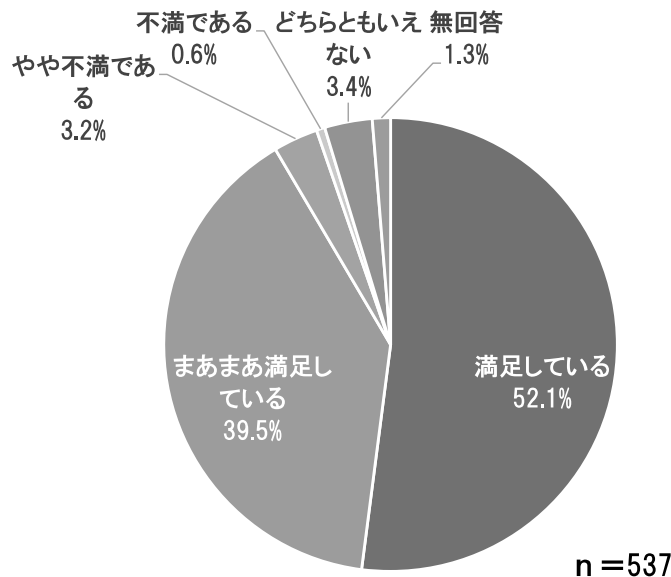
利用しているサービスは、「通所サービス」が81.2%で最も多く、次いで「高齢者サロン・カフェ」が48.6%、「訪問サービス」が28.7%と続いている。



(3) サービス利用の満足度

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

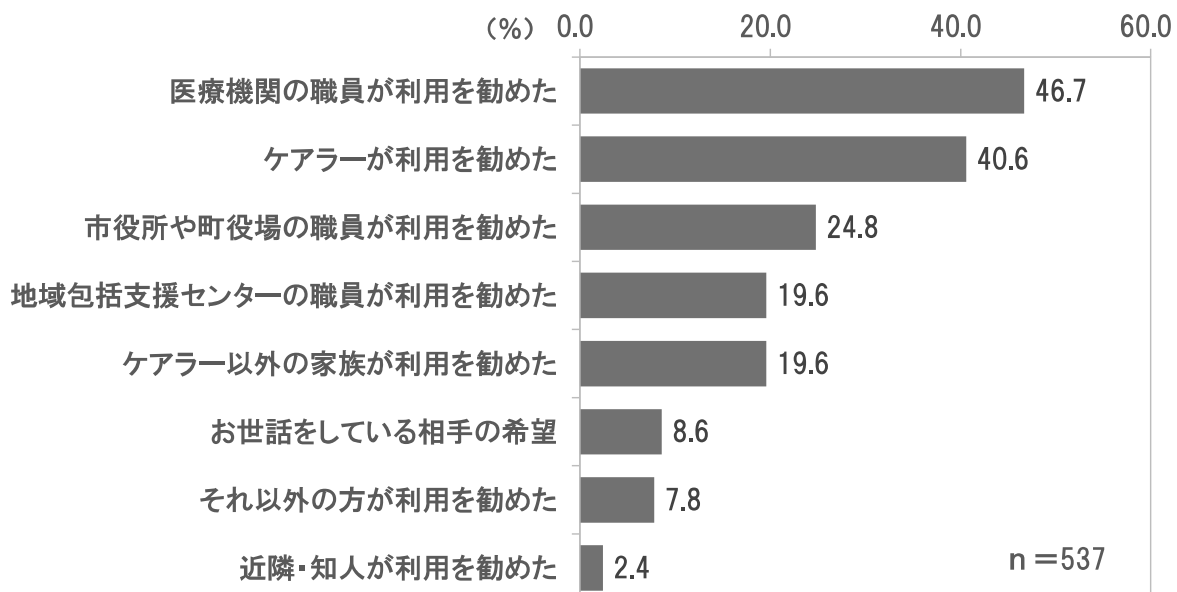
「満足している」が52.1%で最も多く、次いで「まあまあ満足している」が39.5%、「どちらともいえない」が3.4%と続いており、「満足（「満足している」+「まあまあ満足している」）」は91.6%となっている。



(4) サービス利用のきっかけ

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

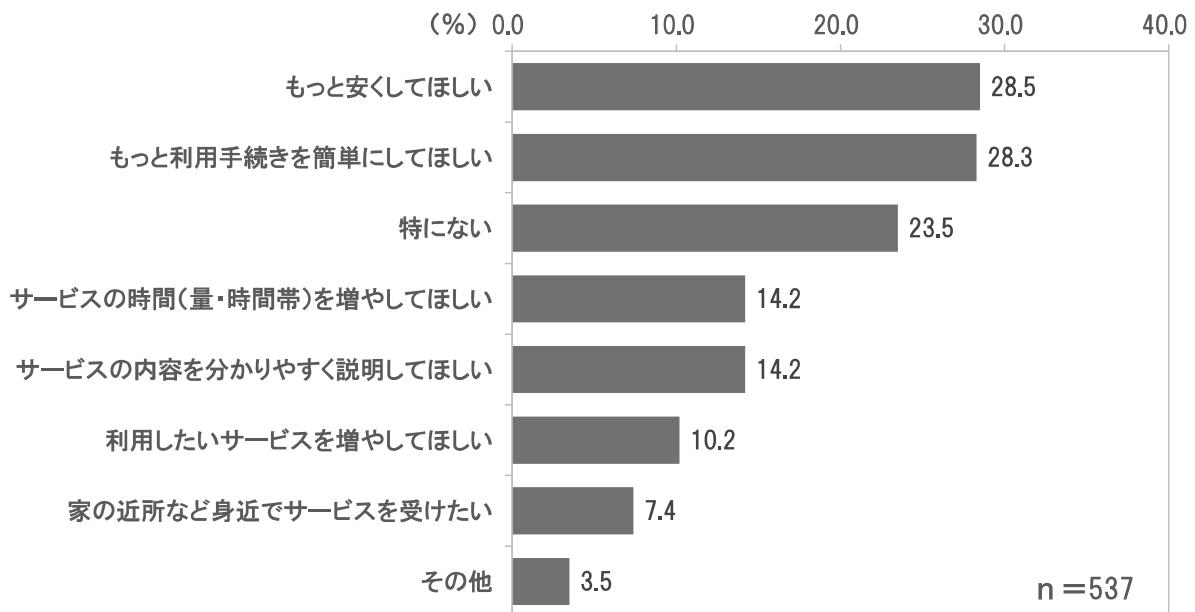
サービス利用のきっかけは、「医療機関の職員が利用を勧めた」が46.7%で最も多く、次いで「あなたが利用を勧めた」が40.6%、「市役所や町役場の職員が利用を勧めた」が24.8%と続いている。



(5) サービス利用に必要な配慮

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

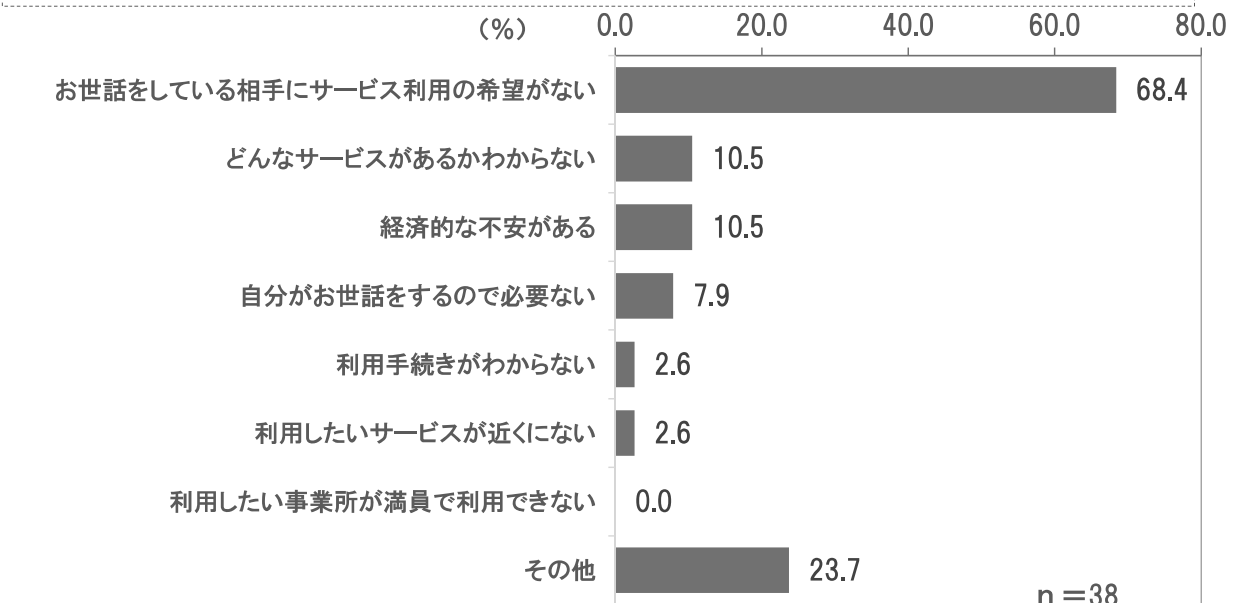
サービス利用の配慮は、「もっと安くしてほしい」が28.5%で最も多く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」が28.3%、「特にない」が23.5%と続いている。



(6) サービスを利用しない理由

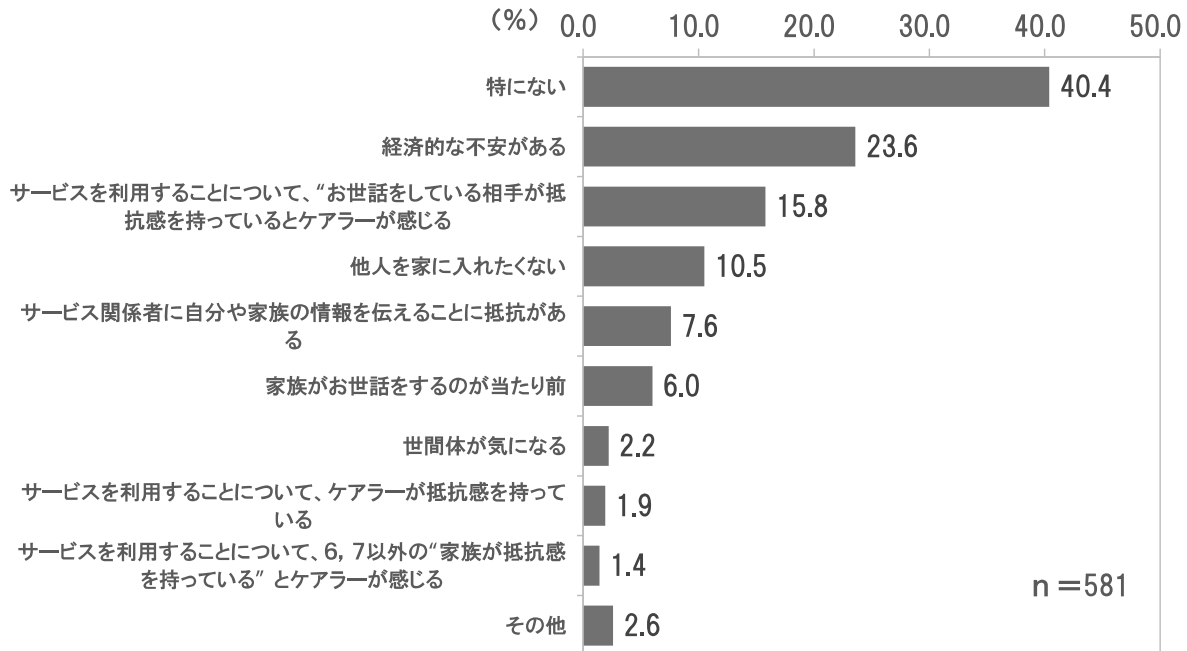
(公的サービスを利用したことがない人のみ回答)

サービスを利用しない理由は「お世話をしている相手にサービス利用の希望がない」が68.4%で最も多く、次いで「どんなサービスがあるかわからない」・「経済的な不安がある」が10.5%、「自分がお世話をするので必要ない」が7.9%と続いている。



(7) サービス利用の抵抗感

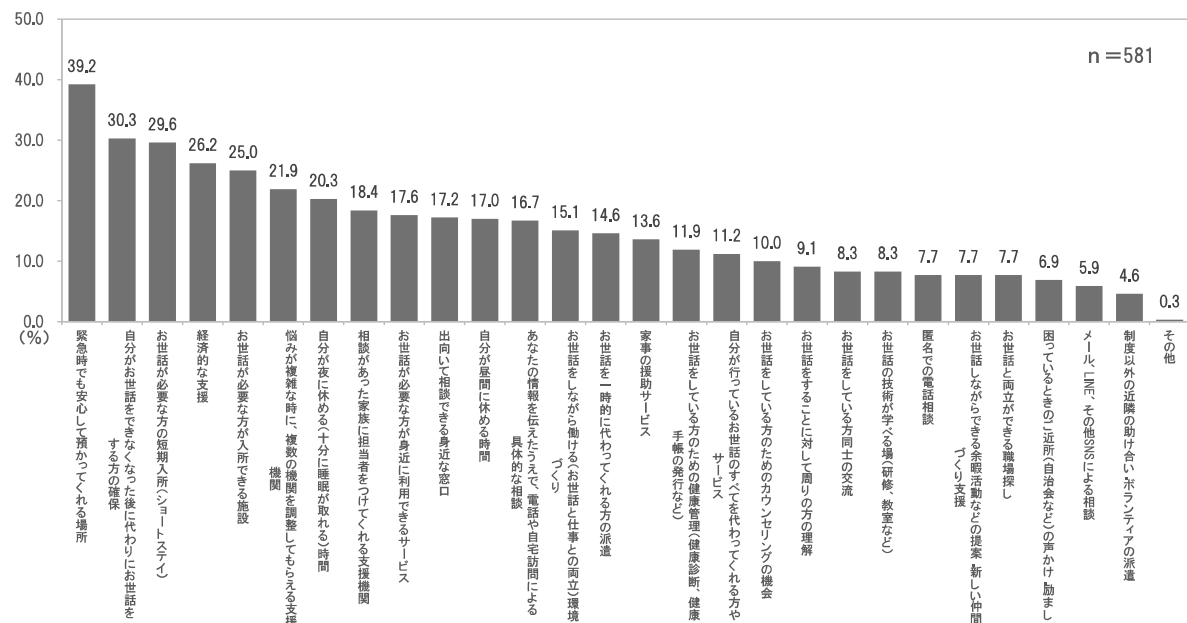
サービス利用の抵抗感は、全体では「特にない」が40.4%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が23.6%、「サービスを利用することについて、お世話をしている相手が抵抗感を持っているとケアラーが感じる」が15.8%と続いている。



6. ケアラーに必要な支援

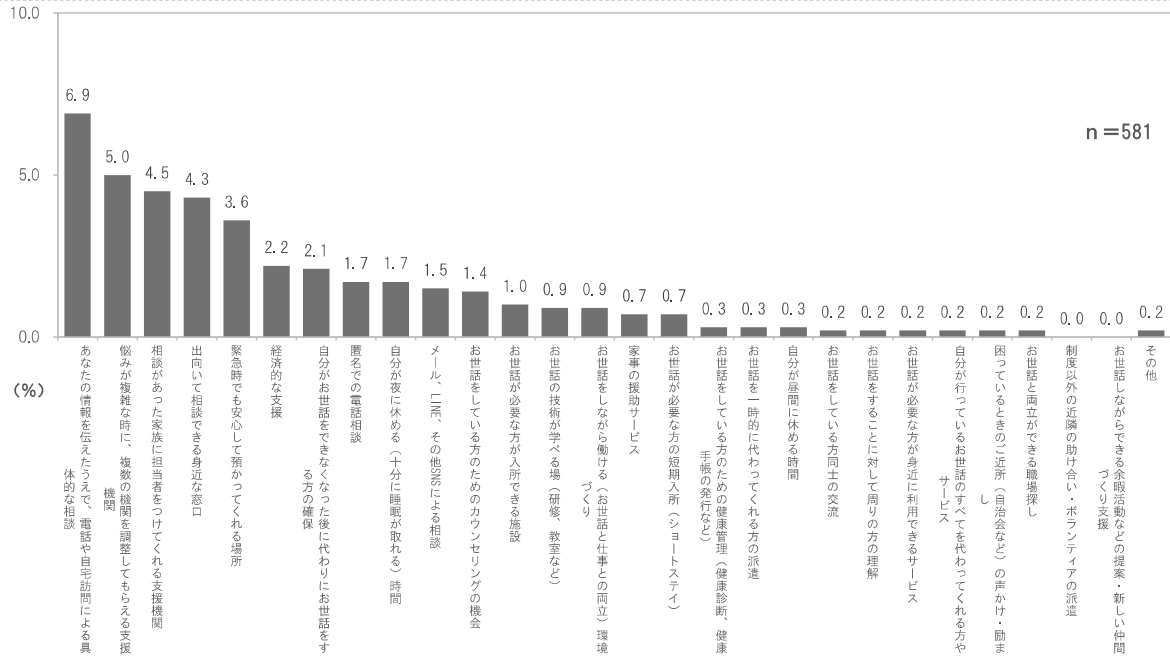
(1) ケアラーに必要な支援

必要な支援は、「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が39.2%で最も多く、次いで「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が30.3%、「お世話が必要な方の短期入所（ショートステイ）」が29.6%と続いている。



(2) ケアラーに最も必要な支援

最も必要な支援は、「あなたの情報を伝えたうえで、電話や自宅訪問による具体的な相談」が6.9%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が5.0%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が4.5%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」が4.5%と続いている。



長崎県ケアラー当事者実態調査結果

②主に障害者をお世話するケアラー

令和5年10月
長崎県福祉保健部長寿社会課

【調査目的】

家族の介護や、日常生活上のお世話を無償でしている人（ケアラー）の悩みや困りごと、支援ニーズ等を把握し、支援を必要としているケアラーの早期発見や適切な支援につなげるための方策を検討するとともに、ケアラー支援に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための計画策定の基礎資料とすることを目的とする。

【調査対象】

以下の事業者等を通じて抽出したケアラー

①障害者相談支援事業所（153か所）

【調査対象数】

459件

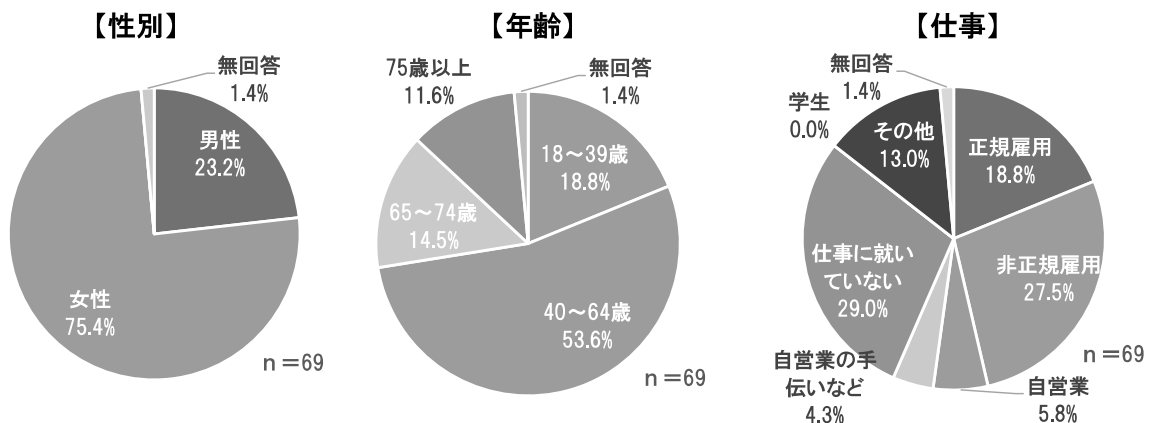
【回答数】

69件（回答率15.0%）

1. ケアラーの基本属性

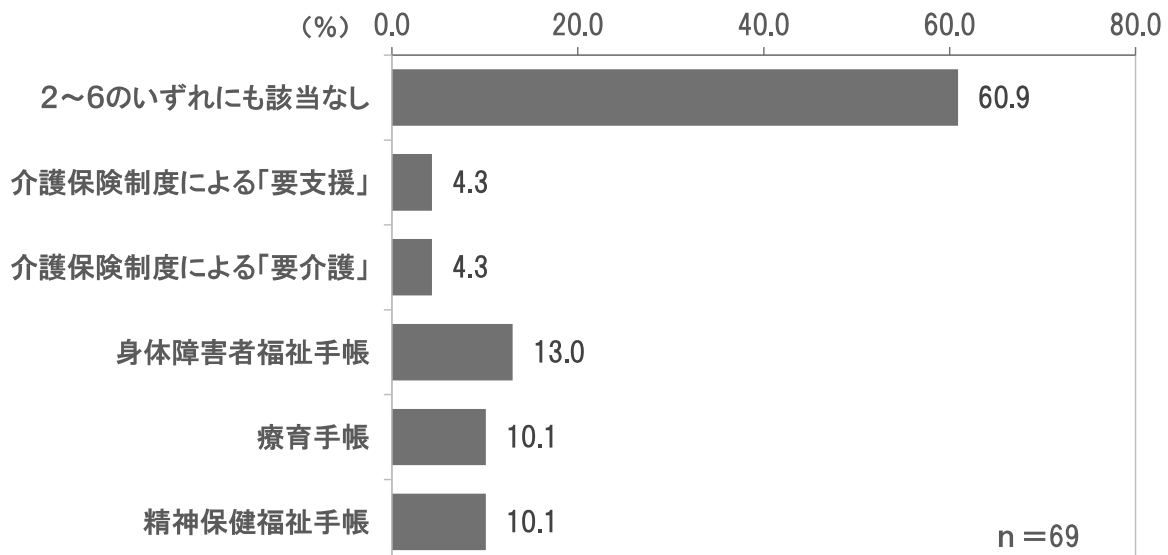
(1) ケアラーの性別・年齢・仕事

性別は「女性」75.4%、「男性」23.2%となっている。
 年齢は「40～64歳」が53.6%で最も多く、次いで「18～39歳歳以上」が18.8%、「65～74歳」が14.5%と続いている。
 仕事は「仕事に就いていない」が29.0%で最も多く、次いで「非正規雇用」が27.5%、「正規雇用」が18.8%と続いている。



(5) ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等

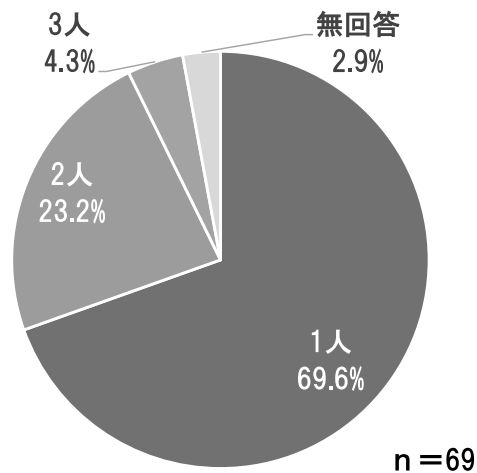
ケアラーの要介護状態・障害支援区分の認定状況等は「2～6のいずれにも該当なし」が60.9%で最も多く、次いで「身体障害者福祉手帳」が13.0%、「療育手帳」・「精神保健福祉手帳」が10.1%と続いている。このことから、3割弱がケアラー自身も何らかの障害や支援を必要とする人となっていることがわかる。



2. お世話をしている相手の状況

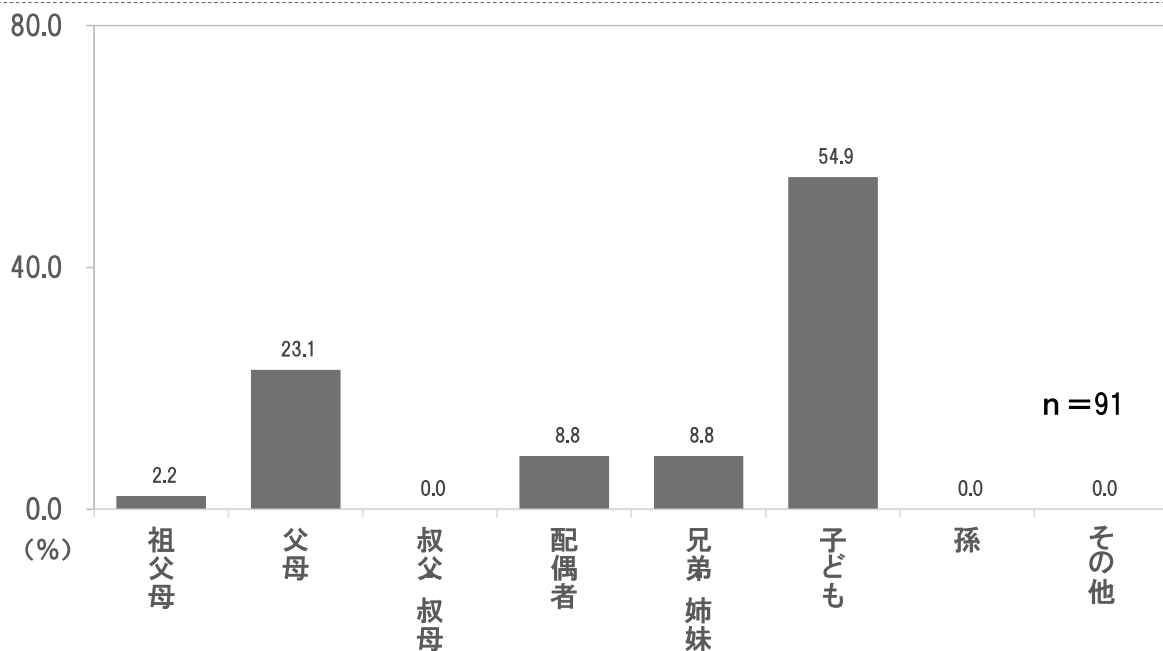
(1) お世話をしている相手の人数

お世話をしている相手の人数は「1人」が81.8%で最も多く、次いで「2人」が16.4%、「3人」が1.9%となっている。



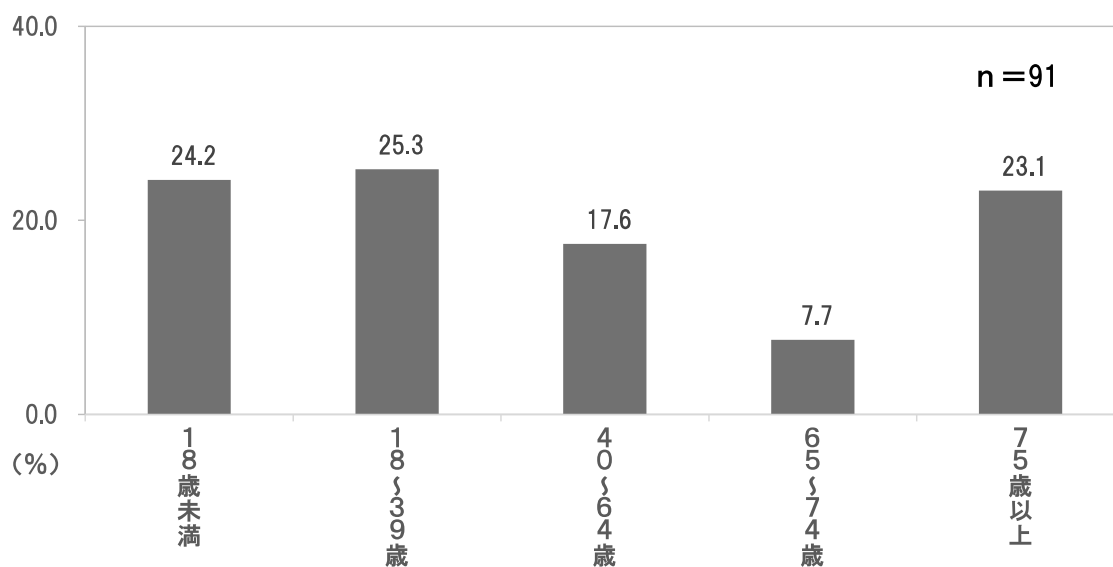
お世話をしている相手の続柄

お世話をしている相手の続柄は「子ども」が54.9%で最も多くなっており、次いで「父母」が23.1%、「配偶者」・「兄弟・姉妹」が8.8%と続いている。



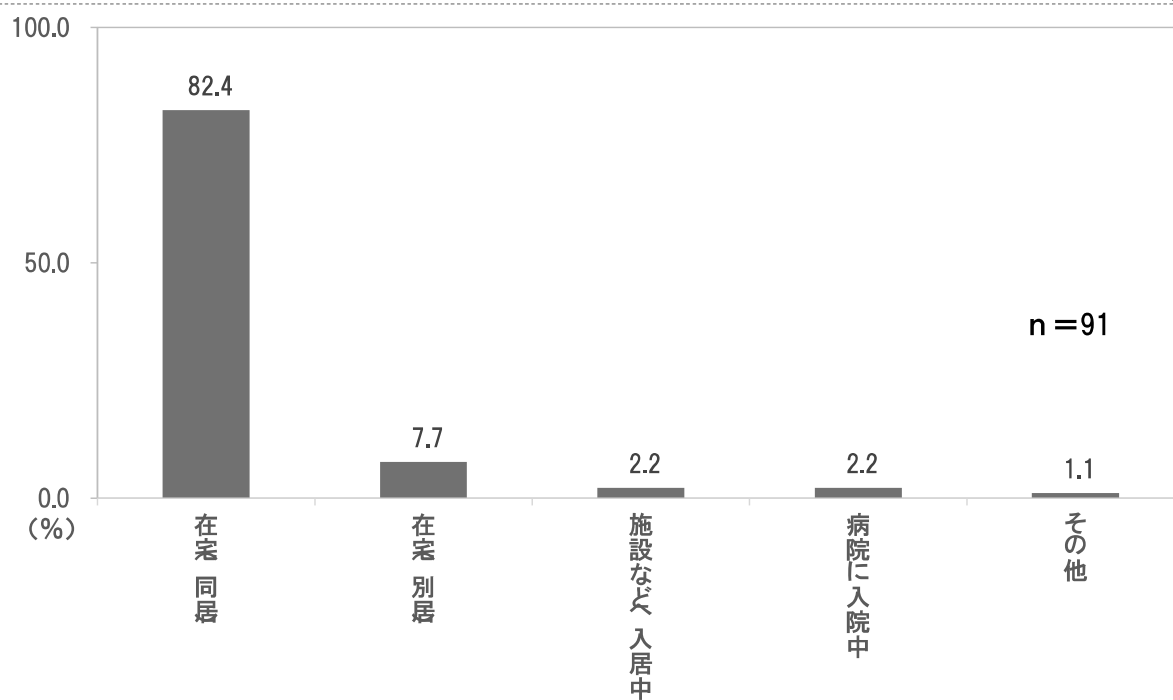
(2) お世話をしている相手の年齢

お世話をしている相手の年齢は「18～39歳」が25.3%で最も多く、次いで「18歳未満」が24.2%、「75歳以上」が23.1%と続いている。



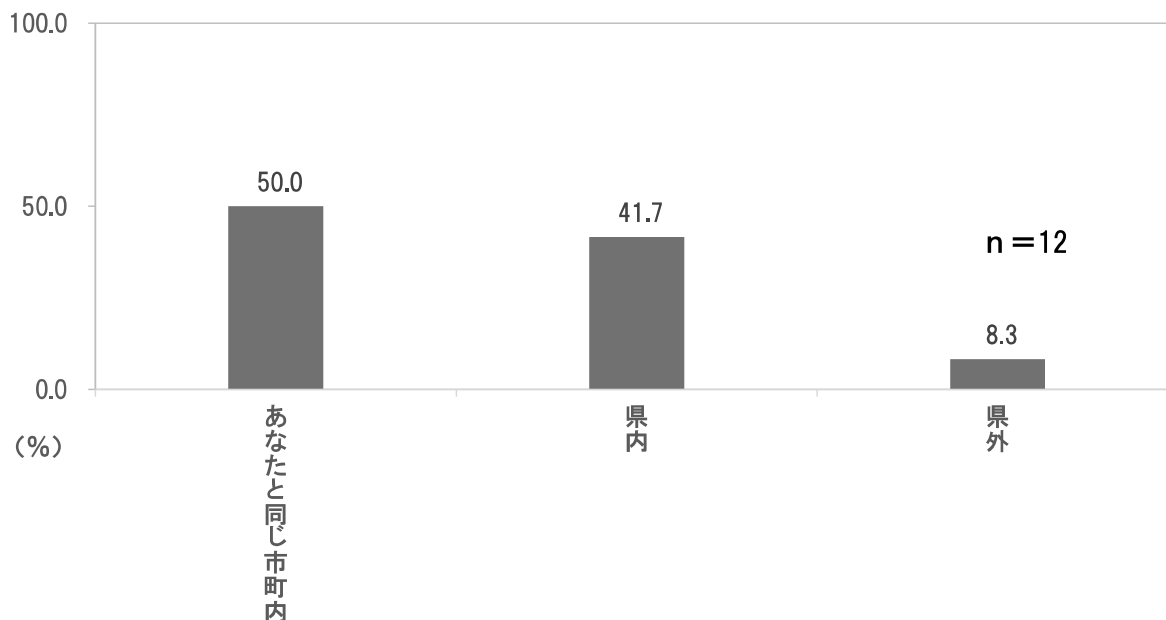
(3) お世話をしている相手の生活の場所

お世話をしている相手の住まいは「在宅（同居）」が82.4%で最も多く、次いで「在宅（別居）」が7.7%、「施設などへ入居中」・「病院に入院中」が2.2%と続いている。



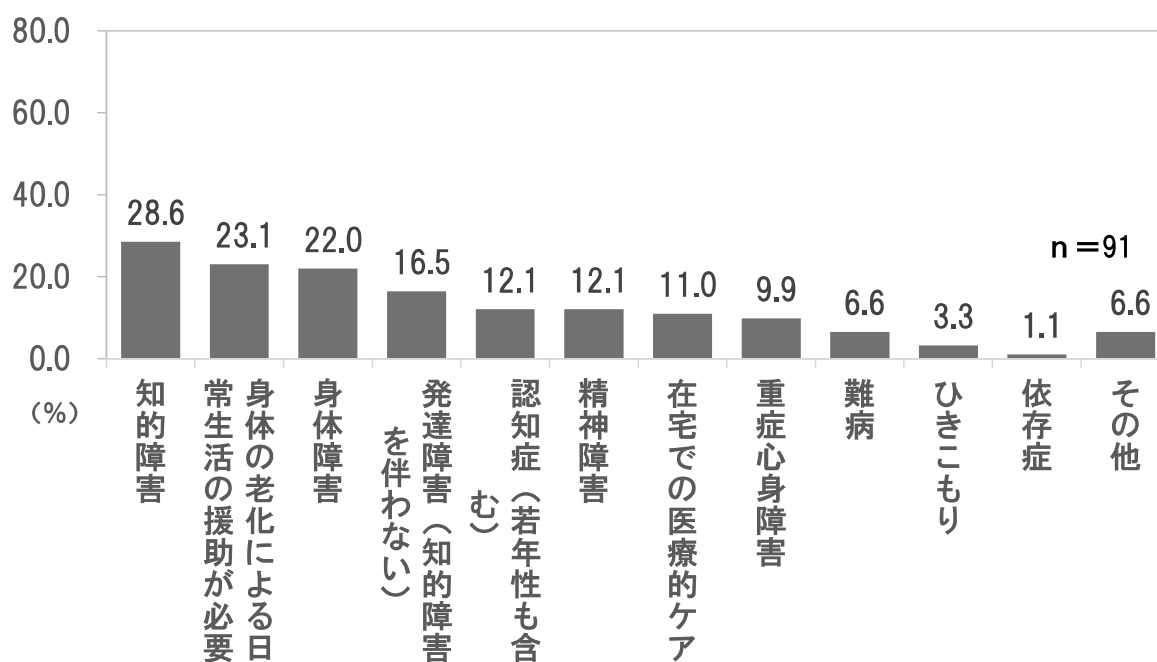
(4) お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）

お世話をしている相手の生活の場所（同居でない場合）は「あなたと同じ市町内」が50.0%で最も多く、次いで「県内」が41.7%、「県外」が8.3%と続いている。



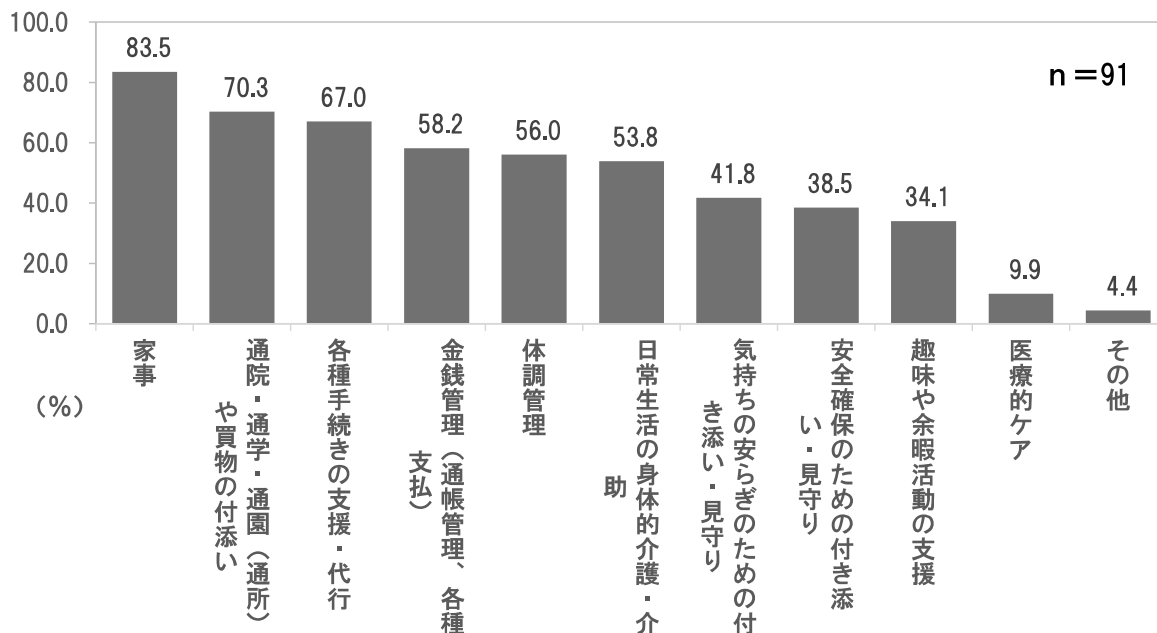
(5) お世話がが必要な理由

「知的障害」が28.6%で最も多く、次いで「身体の老化による日常生活の援助が必要」が23.1%、「身体障害」が22.0%と続いている。



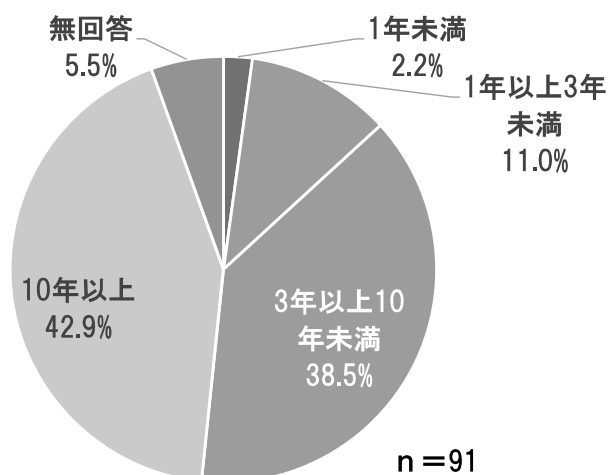
(6) お世話をしている内容

お世話をしている内容は「家事」が83.5%で最も多く、次いで「通院や買物の付添い」が70.3%、「各種手続きの支援・代行」が67.0%と続いている。



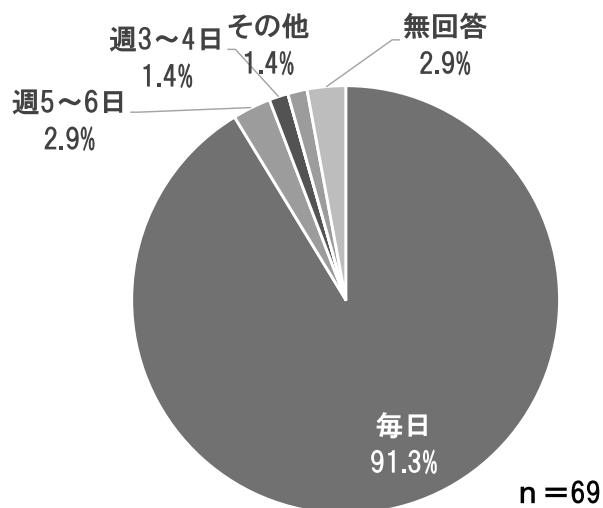
(7) お世話をしている期間

お世話をしている期間は「10年以上」が42.9%で最も多く、次いで「3年以上10年未満」が38.5%、「1年以上3年未満」が11.0%と続いている。



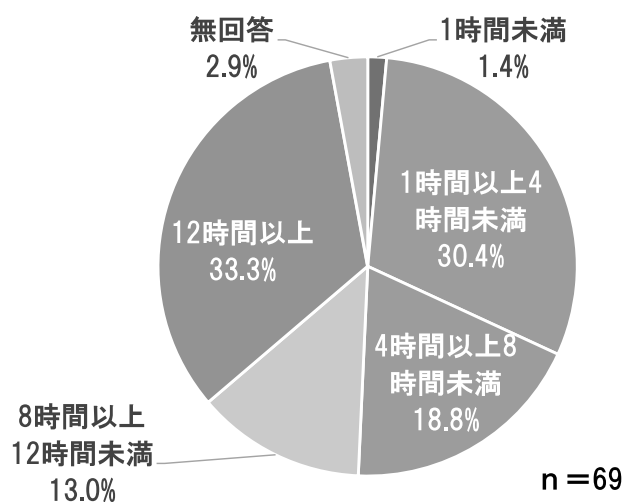
(8) お世話のサイクル

お世話のサイクルは「毎日」が91.3%で最も多く、次いで「週5～6日」が2.9%、「週3～4日」が1.4%と続いている。



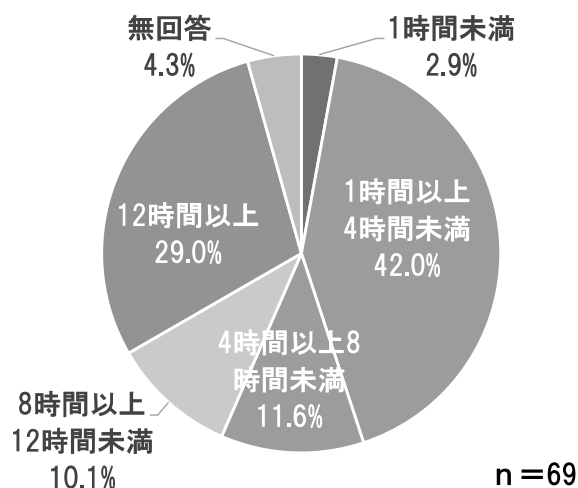
(9) お世話の最長時間（1日）

直近1ヶ月のお世話の最長時間（1日）は「12時間以上」が33.3%で最も多く、次いで「1時間以上4時間未満」が30.4%、「4時間以上8時間未満」が18.8%と続いている。



(10) お世話の平均時間(1日)

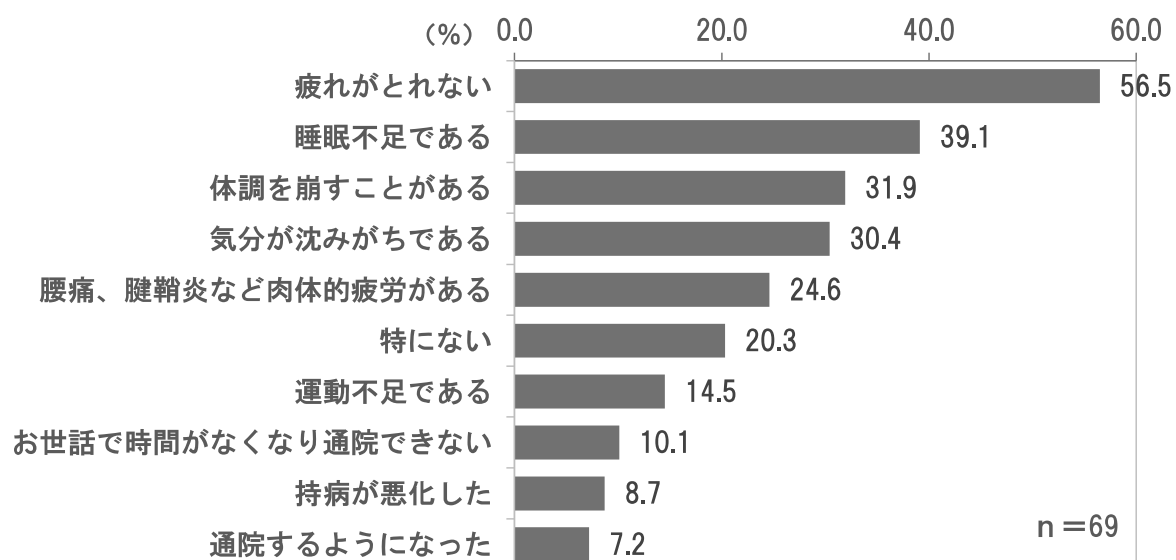
直近1ヶ月でのお世話の平均時間(1日)は「1時間以上4時間未満」が42.0%で最も多く、次いで「12時間以上」が29.0%、「4時間以上8時間未満」が11.6%と続いている。



3. ケアラーへの影響

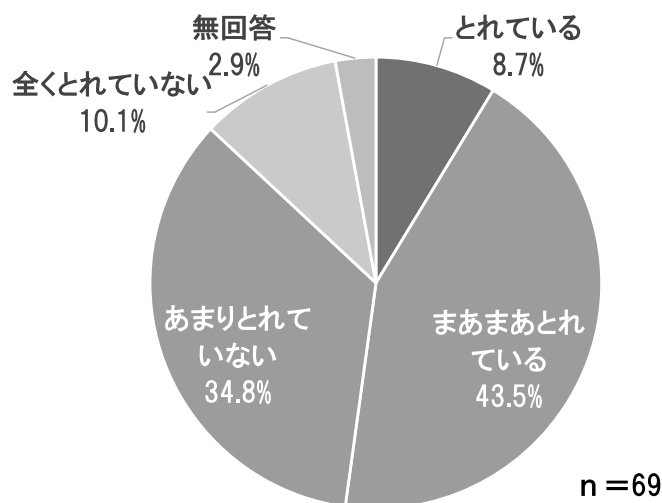
(1) 健康面への影響

お世話による健康への影響は「疲れがとれない」が56.5%で最も多く、次いで「睡眠不足である」が39.1%、「体調を崩すことがある」が31.9%と続いている。



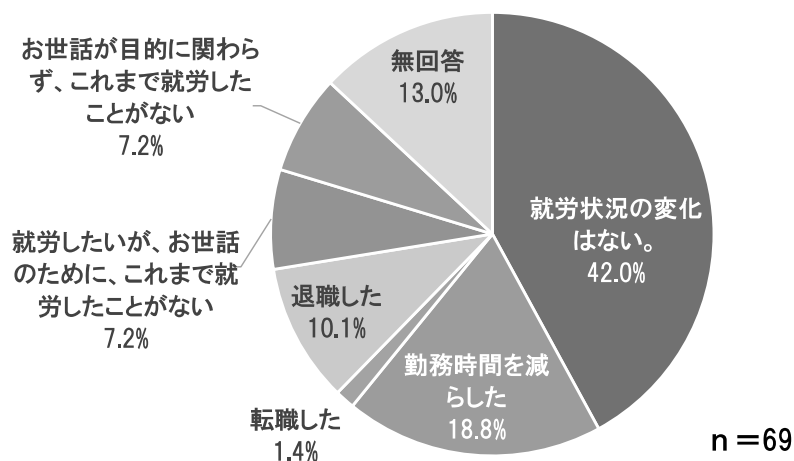
(2) 自分のための時間

「とれる（「とれている」+「まあまあとれている」）」が52.2%、「とれていない（「あまりとれていない」+「全くとれていない」）」が44.9%となっている。



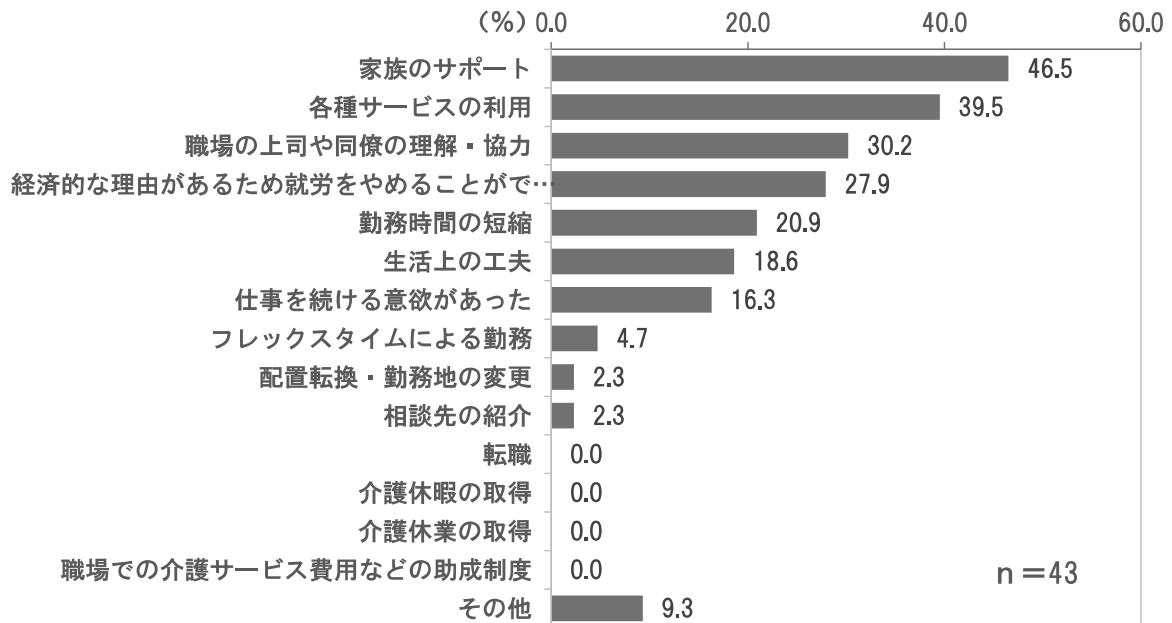
(3) 就労状況の変化

「就労状況の変化はない」が42.0%で最も多く、次いで「勤務時間を減らした」が18.8%、「退職した」が10.1%と続いている。



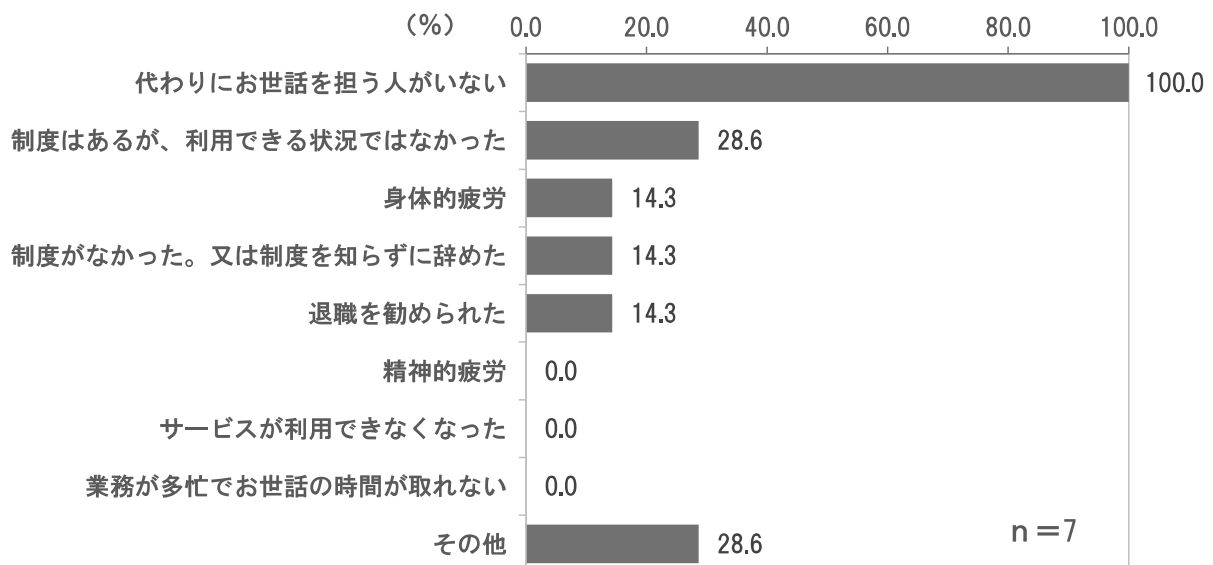
(4) 就労継続ができた理由 (就労を続けられた方のみ回答)

就労継続ができた理由は「家族のサポート」が46.5%で最も多く、次いで「各種サービスの利用」が39.5%、「職場の上司や同僚の理解・協力」が30.2%と続いている。



(5) 退職した理由 (お世話をすることを機に退職された方のみ回答)

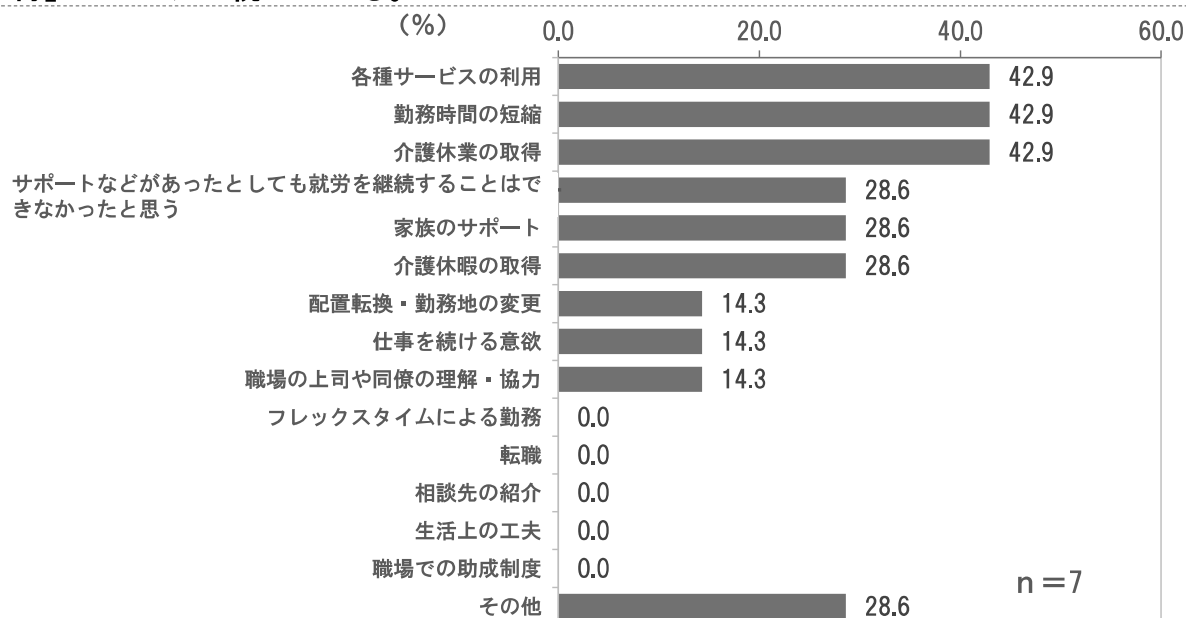
退職した理由は「代わりにお世話を担う人がいない」が100.0%で最も多く、次いで「制度はあるが、利用できる状況ではなかった」が28.6%、「身体的疲労」・「制度がなかった。又は制度を知らずに辞めた」・「退職を勧められた」が14.3%と続いている。



(6) 就労を継続するために必要な支援

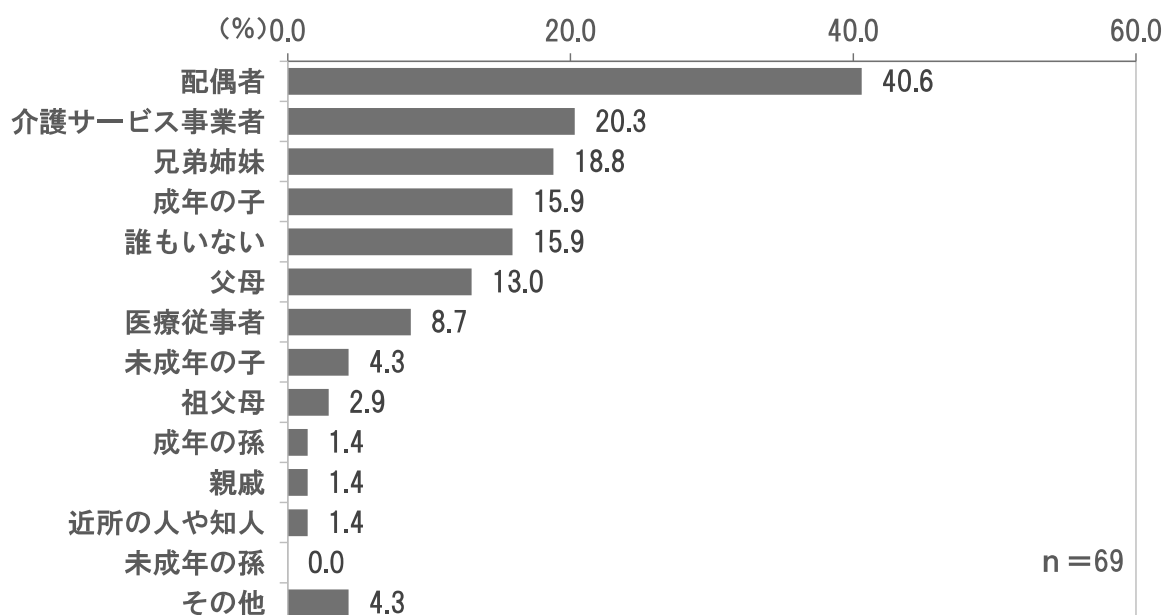
(お世話をすることを機に退職された方のみ回答)

退職を回避する方法は「各種サービスの利用」・「勤務時間の短縮」・「介護休業の取得」が42.9%で最も多く、次いで「サポートなどがあっても就労を継続することはできなかったと思う」・「家族のサポート」・「介護休暇の取得」が28.6%と続いている。



(7) 緊急時の代替者

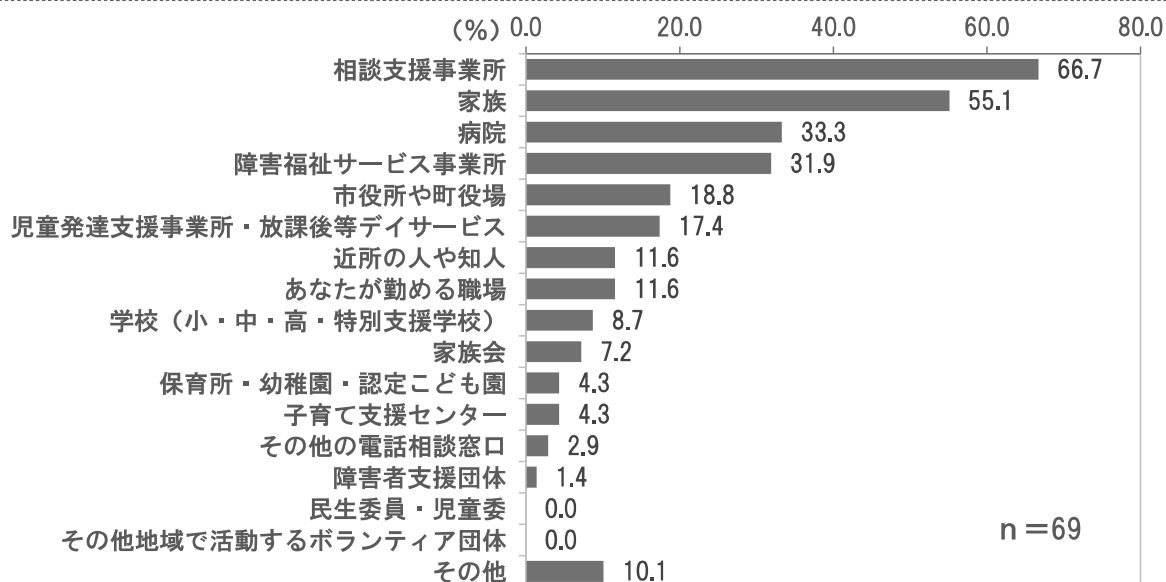
代わりのケアラーは、「配偶者」が40.6%で最も多く、次いで「介護サービス事業者」が20.3%、「兄弟姉妹」が18.8%と続いている。



4. 相談先や相談窓口

(1) 頼りにしている相談先

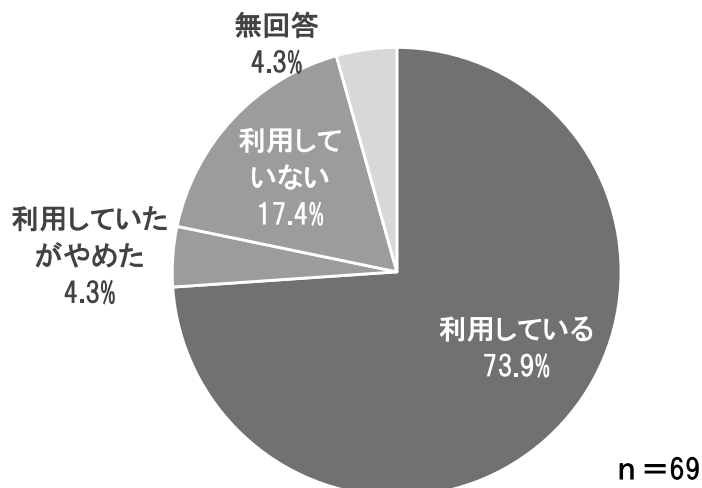
頼りにしている相談先は、「相談支援事業所」が66.7%で最も多く、次いで「家族」が55.1%、「病院」が33.3%と続いている。



5. お世話を必要としている相手の公的サービス利用

(1) 介護サービスなどの公的支援利用の有無

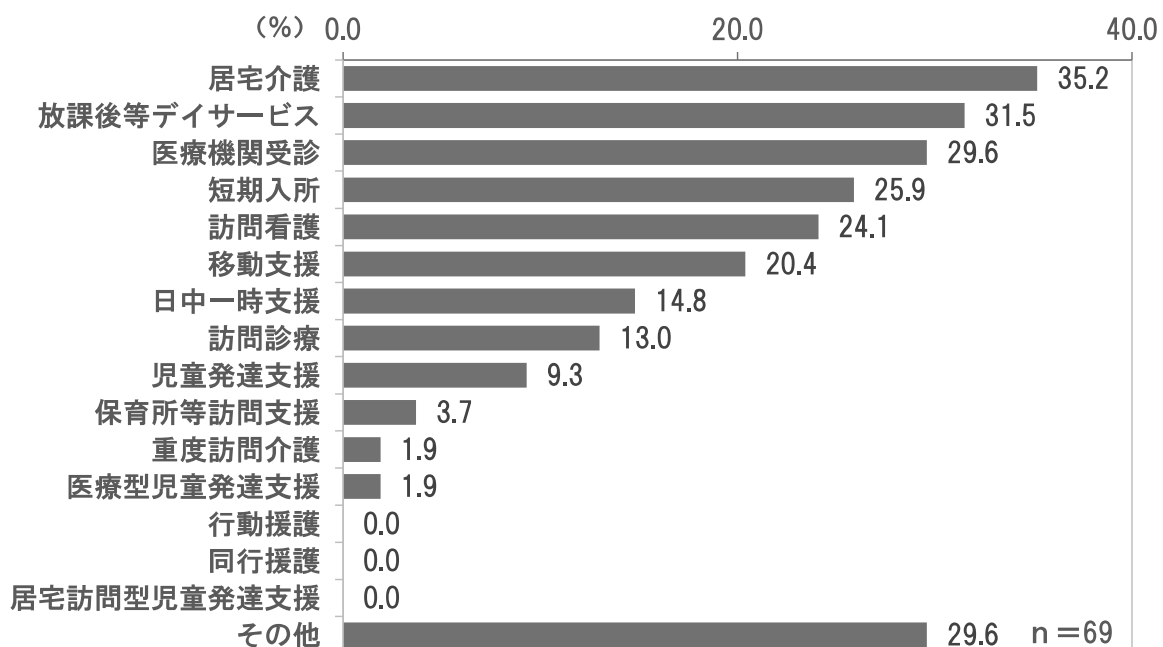
「利用している」が73.3%で最も多く、次いで「利用していない」が17.4%、「利用していたがやめた」が4.3%と続いている。



(2) 利用しているサービス

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

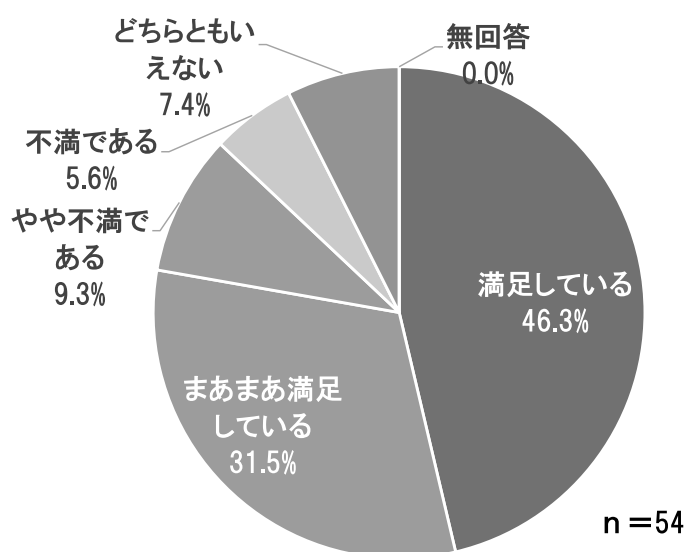
利用しているサービスは、「居宅介護」が35.2%で最も多く、次いで「放課後等デイサービス」が31.5%、「医療機関受診」が29.6%と続いている。



(3) サービス利用の満足度

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

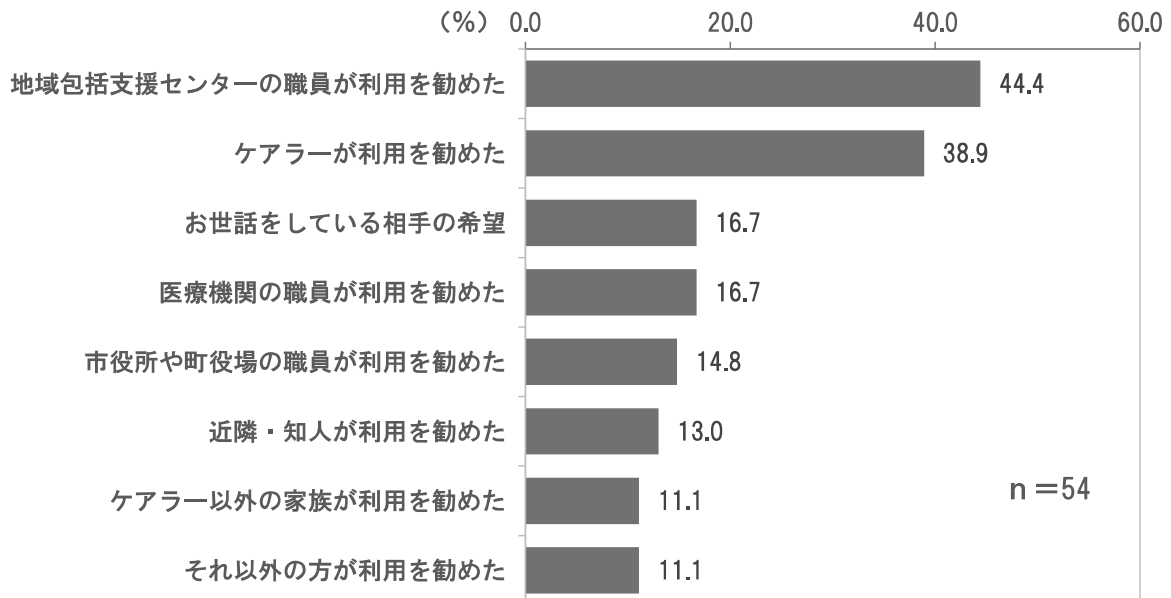
「満足している」が46.3%で最も多く、次いで「まあまあ満足している」が31.5%、「やや不満である」が9.3%と続いております、「満足(「満足している」+「まあまあ満足している」)」は77.8%となっている。



(4) サービス利用のきっかけ

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

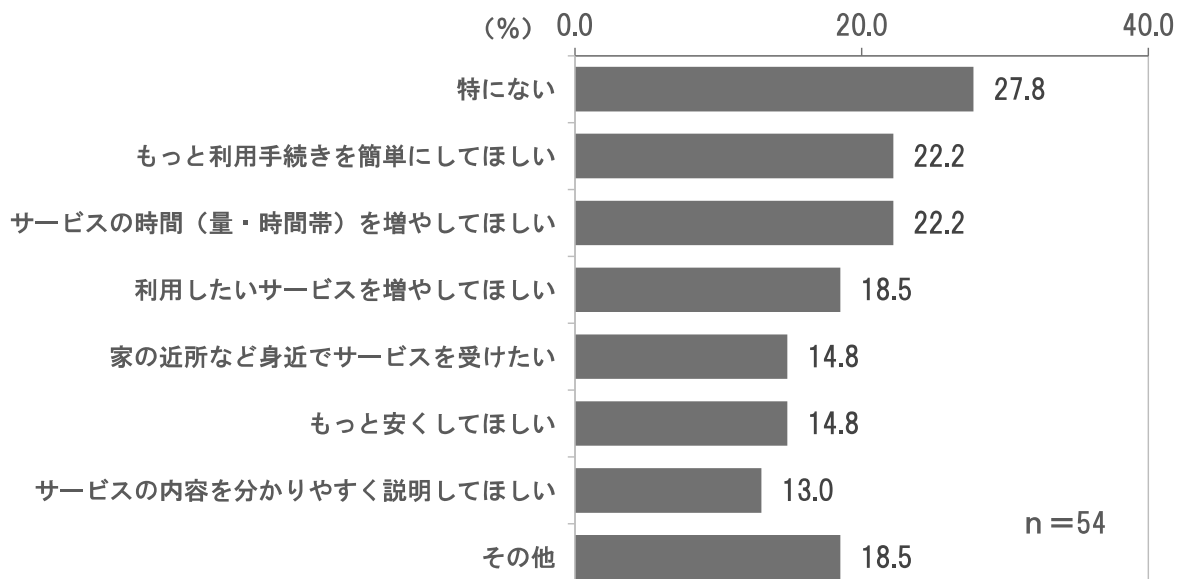
サービス利用のきっかけは、「地域包括支援センターの職員が利用を勧めた」が44.4%で最も多く、次いで「ケアラーが利用を勧めた」が38.9%、「お世話をしている相手の希望」が16.7%と続いている。



(5) サービス利用に必要な配慮

(公的サービスを利用したことがある人のみ回答)

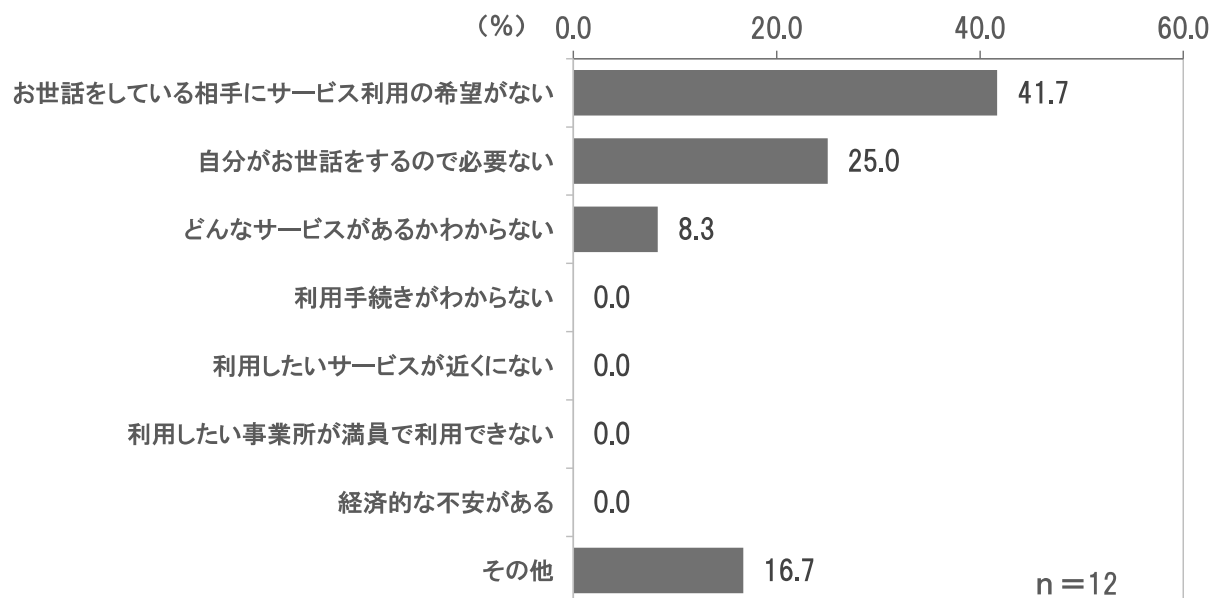
サービス利用の配慮は、「特にない」が27.8%で最も多く、次いで「もっと利用手続きを簡単にしてほしい」・「サービスの時間(量・時間帯)を増やしてほしい」が22.2%と続いている。



(6) サービスを利用しない理由

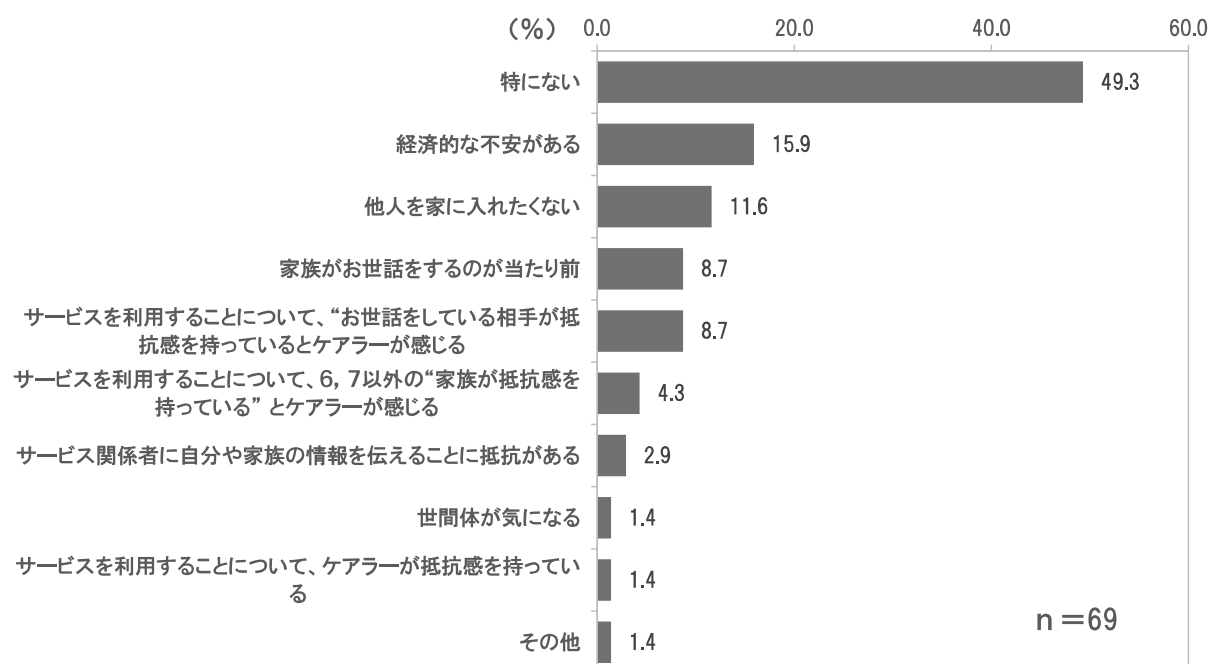
(公的サービスを利用したことがない人のみ回答)

公的支援を利用しない理由は、「お世話をしている相手にサービス利用の希望がない」が41.7%で最も多く、次いで「自分がお世話をするので必要ない」が25.0%、「どんなサービスがあるかわからない」が8.3%と続いている。



(7) サービス利用の抵抗感

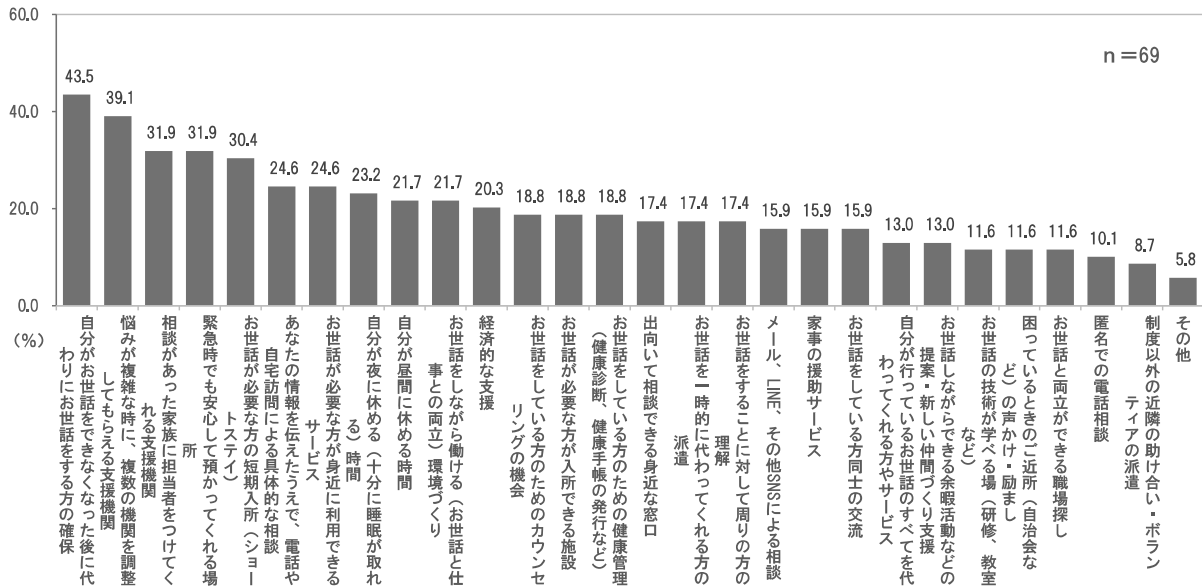
サービス利用の抵抗感は、「特にない」が49.3%で最も多く、次いで「経済的な不安がある」が15.9%、「他人を家に入れたくない」が11.6%と続いている。



6. ケアラーに必要な支援

(1) ケアラーに必要な支援

必要な支援は、「自分がお世話をできなくなった後に代わりにお世話をする方の確保」が43.5%で最も多く、次いで「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が39.1%、「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」・「緊急時でも安心して預かってくれる場所」が31.9%と続いている。



(2) ケアラーに最も必要な支援

最も必要な支援は、「悩みが複雑な時に、複数の機関を調整してもらえる支援機関」が7.2%で最も多く、次いで「相談があった家族に担当者をつけてくれる支援機関」・「出向いて相談できる身近な窓口」が4.3%と続いている。

